

DURC

WILD ROVER CREW vol.027



2018.11-2019.11

力漕
同志社大学
体育会ボート部



02 戦績ハイライト

- 02. 第72回記念大会朝日レガッタ
- 04. 第97回全日本選手権大会
平成31年度関西選手権競漕大会
- 07. 第46回全日本大学選手権大会
- 09. 第46回全日本新人選手権大会
第30回関西学生秋季選手権
- 12. 第69回東日本選手権大会

14 2020年度 強化計画

15 新歓隊長の視点

DURC TOPICS 2019

16 2019 年アジアボート選手権 第 12 回全日本マスターズレガッタ

いつも艇友会の皆さまには、ボート部の活動のみならず、現役生の就職活動支援など、いろいろな側面から温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

2019年度の戦績は、全日本大学選手権大会で男子舵手付きフォアが見事に優勝を勝ち取り、男子舵手なしフォアが4位入賞を果たしました。全日本選手権大会では男子軽量級ダブルスカルが準優勝を果たしました。

こうして個々のクルーが立派な戦績を収めるようになった背景には、部全体として着実にレベルアップし、選手層が厚くなっていることがあります。このことは、全日本大学選手権大会で、すべての種目に同志社クルーが出漕ぎ、団体総合ランキングで男子5位入賞を果たしていることに表れていると思います。

女子も歴史が浅いながらも、34団体中で11位と力を付けてきています。

このようなボート部の総合力が大学にも認められ、体育会重点強化指定クラブ(B)に2020年度から指定されることになりました。これも、艇友会会長や幹事をはじめ、艇友会の皆さまからの長年にわたるご支援の賜物であると、本当に心より感謝申し上げます。

指定期間は2023年度までの4年間ですが、2期8年まで継続することが可能です。しかし、関西レベルの大会において準優勝以上の成績を4年間で2回以上収めることなど指定継続基準があり、その基準を満たさなかった場合は、指定は解除されます。また、最近では、他大学の有名な体育会クラブが、薬物など部員の不祥事によって、クラブ活動が停止になったりしています。このようなことがボート部にも生ずると、一瞬にしてこれまでの苦労は水の泡となってしまうのです。

共通の目標、目的を持ち、先輩、後輩問わず、お互いがライバルとして切磋琢磨して、個人の競技力向上を図りながら、部員全員がボート競技の高みを目指すという雰囲気、部全体として形成されてきている今だからこそ、部員一人ひとりが、ちょっとした気の緩みが瓦解を引き起こしてしまうということを自覚し、行動しなければなりません。この意味で、今のボート部にとって「謙虚に継続すること」が必要だと思います。

艇友会の皆さまには、どうか今後ともなお一層のお力添えを賜りますことをお願い申し上げます。

18 米・アーモスト大学 特別寄稿 Rowing Transcendence

21 艇友会インタビュー 林田 尚之 先輩(昭和57年卒)

22 若手社会人の今 松本 直弥 先輩(平成30年卒)

25 卒業生の言葉

32 2020年度 現役部員紹介

38 コーチングスタッフ紹介

40 令和元年度 ボート部にご支援いただいた皆さま

『力漕』vol.27 発刊に寄せて



同志社大学体育会ボート部長

志賀 理

大切な絆を つなげよう。



いつもは身近すぎて、空気のように感じている家族や恋人や仲間たちとの絆。でも本当はそこにあって、毎日と一生を支え合っている、かけがえのない絆。日本生命は東京2020オリンピック聖火リレーのパートナーとして、全国各地ひとりひとりの絆を照らしながら、日本中を明るくしていきます。

日本生命は東京2020オリンピック聖火リレーのプレゼンティングパートナーです。



レースNo.183 決勝(10:15発艇)

順位	クルー	レーン 1000mタイム
①	瀬田漕艇クラブ SN	4 4'02"24
②	同志社大学 A	3 4'06"99
③	龍谷大学 B	6 4'07"54
④	龍谷大学 A	5 4'10"89
⑤	京都大学	1 4'13"90
⑥	立命館大学 B	2 4'14"35

勝は波にやられて前半蛇行してしまい瀬田漕艇クラブに出られてしまったが、得意の後半で龍谷Bを差して0・5秒差で準優勝を勝ち取れたのは大きな自信に繋がった。2人とも初めての決勝、メダルで嬉しかったが、この結果に満足せず全日本に向けてまた新たな気持ちで取り組んでいく。
(山本 百華)



レースNo.191 決勝(12:15発艇)

順位	クルー	レーン 1000mタイム
①	立命館大学	4 3'46"54
②	龍谷大学	3 3'53"89
③	福岡女子大学	2 3'54"27
④	同志社大学	5 3'58"83
⑤	関西学院大学	6 4'08"21
⑥	滋賀大学教育学部 快	1 4'08"99

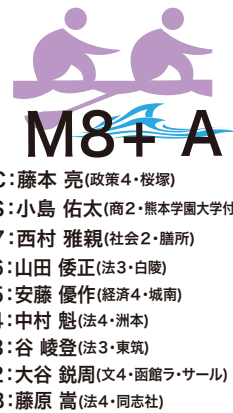
スタートから250m地点では立命館に半艇身差、龍谷と福岡女子に対しては出ることができたが、スタートスパートでうまく船が乗り切らず、そのままズルズルといってしまいうレース展開となった。中盤以降、自艇もミドルスパートで伸びたものの、龍谷と福岡女子に先に出られてしまい、ラストスパートでは追いつくことなくそのまま出られてしまった。少しの波で出られてしまいブレードワークが合わず、逆風に弱いという、自分たちの技量、経験値不足がみられた。インカレに向けてもう一度フィジカル面から強くしていきたいと思う。
(武安 玲佳)



レースNo.193 決勝(12:45発艇)

順位	クルー	レーン 1000mタイム
①	東レ滋賀	4 3'04"00
②	同志社大学 A	3 3'09"63
③	同志社大学 B	5 3'11"15
④	関西大学	6 3'11"20
⑤	京都大学	2 3'11"25
⑥	大阪大学	1 3'50"08

今の対校エイトのストロークポイントは他艇と並んだ時のスパートの力強さ、後半500mの伸びであると思えている。予選、決勝共に自分たちの強みを活かして漕ぐことができた。特に後半500mで大きく船が動いた。今、改善すべきポイントはスタートなので、そこを改善し他艇よりも先に出て楽なレース運びをしたい。お花見の時点のエイトに比べクルー内で合わせるポイントが合い、大きく船を動かせる時間が圧倒的に多くなったことは成長を感じている。決勝では400m地点まで波の影響があり大きく崩し、他艇に出遅れる形となったが落ち着いて立て直すことができ、一気に1艇身程出ることができた。東レとの差が戸田のクルーとの差とほぼ同じであると考えてるので、その差を埋めることに徹していきたい。これからは全日、関選、インカレと2000mの大会だが、このクルーのリズム、伸びをみると2000mのほうで得意であると思うのでまずは全日に向けてもう一段階上を狙う。
(藤原 嵩)



クルーの強みはスタートで、対校との並べにおいてもスタートは必ず出るほどのパワーがあった。予選はスタートで慌ててしまい他艇に出られてしまったが、リズムの移行が上手くでき、2着で決勝に進むことができた。決勝もスタートで波を被って出遅れてしまい、6レーンについていく苦しい展開だった。しかしラスト、ダブルスパートで過去最高の上げ方ができ、0・05秒差で関西大学を差しきって目標であったメダル獲得を達成できた。差しきることができた理由は9人全員が最後まで諦めず勝つという気持ちを忘れなかったからに違いない。
(大谷 大)



戦績 ハイライト

2019.5
↓
2019.11



得意のスタートで他艇を引き離し、予選、決勝は相手を見ながら余裕を持ってレースを運べた。決勝はスタートではわずかに出ることができたものの、激しい競り争いになった。500mでは2位、750mでは3位、メダルを獲得する位置にいなから、そこから足が思うように動かなくなっていきどんどん置いていかれてしまった。前半に飛び出す爆発的なスタート



第72回
朝日レガッタ
2019年 5月3日～6日
於：琵琶湖漕艇場

レースNo.184 決勝(10:30発艇)

順位	クルー	レーン 1000mタイム
①	今治造船	4 3'27"98
②	同志社大学 A	2 3'31"86
③	龍谷大学 A	3 3'33"08
④	東レ滋賀	6 3'34"37
⑤	山口合同ガス B	1 3'36"17
⑥	関西大学	5 3'37"14

特徴の違うお互いの漕ぎを今まで以上に統一させ、それを新しい武器にしようとして挑んだ朝日レガッタ。予選、準決勝と順当に進んだ



レースNo.179 決勝(9:15発艇)

順位	クルー	レーン 1000mタイム
①	小原 (今治造船)	4 4'11"90
②	山本 (関西大学)	3 4'16"02
③	後藤 (福島造船)	6 4'18"95
④	栗原 (松山大学)	2 4'21"06
⑤	宇佐見(同志社大学A)	5 4'21"63
⑥	田原 (山口大学)	1 4'34"41

トとラストに上げられる体力があれば勝てることが分かったので、残された時間徹底的に体力向上に努める。一度とこんなレースはしない。
(宇佐見 侑紀)

予選準決1着で通過でき、レース全体は安定していた。苦手だったスタートで出ることができ、お花見レガッタから朝日までの課題はひとつ克服できた。優勝を目指していた決



ものの、やはり漕ぎがひとつにならないことへの不満が大きかった。そんな中、正念場の決勝戦、発艇後周りに越され4位争いのレース展開。しかし序盤乱れていた動きが中盤以降ひとつになり、一気に2位に飛び出る。この時の艇速は決勝のどのクルーよりも速かった。総合成績は準優勝。優勝の今治造船には堅い実力差を痛感したが、今大会を通じ、動きをひとつにするための大切さを高い次元で改めて学ぶことができた。
(山本 幸之介)





S:清水 諒(経済4・宇部)
B:山本 幸之介(商4・三田学園)

レースNo.85 決勝(11:55発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	京都大学	3 7'33"62
②	大阪大学	4 7'41"44
③	岡山大「燈波」	1 7'52"47
④	大阪工業大学	5 7'58"61
⑤	滋賀大学教育学部 青波	6 8'07"74
⑥	同志社大学 A	2 除外

し、1000m地点で京都大学と接触、除外。優勝を狙い意気込んだレースを漕げなかった。しかしこのクルー期間、三木とお互い大きく成長できたのでインカレにつなげたい。

(藤原嵩)



S:清水 諒(経済4・宇部)
B:山本 幸之介(商4・三田学園)

第97回

全日本選手権大会



2019年 5月23日～26日

於：戸田漕艇場



S:谷 美緒(商3・同志社)
B:山本 百華(文3・下関西)

決勝では、スタートで出られてしまった。スタートで出ることを目標としていたため、立て直すのに少し手間取った。また、並んでいた相手が予想していたよりもスピードが落ちず、得意とするコンスタントの持続力で差を縮め

レースNo.88 決勝(12:40発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	立命館大学 A	3 6'57"07
②	龍谷大学	2 6'59"78
③	同志社大学 A	4 6'59"97
④	茨城大学	5 7'18"45
⑤	広島大学	1 7'18"74
⑥	大阪高校選抜	6 7'23"63

まず予選。決勝同様の予選の組に驚くも、理想のレースができた。中盤で全艇追い抜き1位通過。準決勝では通過を確信したレース。スパートの回数が少なかったことが反省。1位通過。いざ決勝。目をつけていた龍谷大と立命館大が発艇後飛び出す。ここまでは予想しており、序盤のスパートからの失速を狙うが2大学ともに失速せず、順位が変わらない状況に。後半追い上げ龍谷大に迫るが、追いつくに至らずゴール。総合3位入賞。インカレを見据え、優勝するべき大会であったがこの結果を忘れずさらなる飛躍につなげラストレースに向かうつもりである。(山本 幸之介)

レースNo.139 A決勝(13:30発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	日本大学	3 7'13"33
②	同志社大学	4 7'15"92
③	東京経済大学	2 7'17"59
④	日本体育大学	5 7'25"61

歩だったこの部分を自分たちのモノにし、さらに高いレベルに仕上げるのがインカレでの舞台でより良い結果を手にするに繋がると考えている。

(山本 幸之介)



レースNo.89 決勝(12:55発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	名古屋大学 A	3 7'47"91
②	同志社大学	2 7'52"78
③	立命館大学 A	1 7'59"59
④	関西大学 A	5 8'04"40
⑤	神戸大学 A	4 8'10"93
⑥	大阪大学 A	6 8'33"33

てはいたが、1500m地点でも前に2艇おり、落ち着いたレース展開ができなかった。そこからスパートをかけて2位に上がったことは、自信に繋がった。インカレでは横の艇と並び続けるレースを想定して、焦らず、自分たちの強さを出せるように、自信を持てるよう練習をしていく。

(山本 百華)



目標のメダルには届かなかったですが、初めてのシングルスカルのレース、短い期間でどれだけ仕上げられるかを考えて逆算して一つひとつ段階を踏んで練習してきました。やはりまっすぐ進められず、スタートやレーン侵害で相手に出られる展開が多く、経験の差が出てしまいました。結果には満足していま



山田 俊正(法3・白陵)

平成31年度

関西選手権競漕大会



2019年 7月14日～15日

於：大阪府立漕艇センター

レースNo.87 決勝(12:25発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	龍谷大学	2 6'33"94
②	同志社大学 A	4 6'37"36
③	立命館大学	3 6'44"31
④	茨城大学	1 6'56"87
⑤	岐阜大学	5 6'57"15
⑥	関西大学	6 7'13"75

我々クオドルブルの結果は準優勝、1位とのタイム差は3・42秒でした。インカレを見据えた大会としては悪くない力を発揮できたと感じています。半月ほど前に1000m測定した際には優勝クルーの龍谷大学とは5・20秒差で大敗しておりましたが、大会当日には2000mを通して闘ことがうできたと実感しています。この成長度を支えるクルーの精神面および肉体面のタフ差には自信があります。技術力はまだまだですがインカレではこのタフ差を活かし日本一を目指します。

(大慈 智哉)



S:加木 康平(社会3・夕陽丘) 2:涌羅 陽介(商3・星陵)
3:山本 涼太(商3・同志社) B:大慈 智哉(商4・兵庫)

クルー結成から関西選手優勝権を常に意識し続けてトレーニングをしてきたが叶わなかった。予選では1000m地点までは全体トップ通過であったが、そこから蛇行してしまいタイムを落とした。決勝ではスタートから蛇行



S:三木 貴博(経済3・同志社国際)
B:藤原 嵩(法4・同志社)

レースNo.83 決勝(11:25発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	越智(今治造船B)	3 7'36"79
②	岡部(今治造船A)	5 7'39"98
③	御手洗(今治造船C)	4 7'44"29
④	山田(同志社大学E)	2 7'45"76
⑤	福森(京都大学)	6 7'48"29
⑥	山崎(愛媛大学)	1 7'49"93

せんが、スカルで学生1位になったことは自信にしたいと思います。まだまだ努力が足りないと感じたので継続して真摯にボートと向き合い、インカレに向けて頑張っていきたいと思っています。

(山田 俊正)



レースNo.95 決勝(14:25発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	神戸大学	3 5'56"34
②	大阪府立大学	4 5'57"54
③	京都大学	1 6'00"83
④	同志社大学A	5 6'01"51
⑤	関西学院大学	2 6'07"07

敗退もすべて同じです。逆に言うと去年の優勝に縛られ続け、自分たち自信にプレッシャーをかけ続け、関西選手権に限らずずっと苦しんだシーズンでした。レース1週間前に各人の想いが爆発し、クルーが崩壊しかけた時、クルーへのため込んでいたものをぶつけ合うことで復調の最中での今大会でありました。実際は1週間では間に合わないという結果でしたが対校8十で苦しみ、活路を見出したこの経験は、インカレそして来年の8十でいい方向に爆発してくれると思います。去年から先輩方が受け継いでくださった8十のCOXを務めさせていただき幸せでした。と同時に、まとめきれず結果を出せなかったのは僕の責任です。

(山口弘人)

レースNo.86 決勝(12:10発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	同志社大学	5 7'43"97
②	大阪市立大学 誉	2 7'46"76
③	龍谷大学	4 7'47"41
④	大阪府立大学	3 7'47"69
⑤	名古屋大学	6 7'51"65
⑥	大阪高校選抜	1 8'02"15

予選では船に馴れることができず、バランズがとれずにいた。全体的に力んだ状態での漕ぎになってしまった。大阪市立大と並んでいたのだが、抜けそうなどきの脚蹴りで焦ってしまい上手く伸ばすことができなかった。そのまま刺せず2位となった。

決勝では、船に適応していき、落ち着いた大きな漕ぎになっていった。足蹴りで伸ばすことができ、並んだ状態から一歩抜けることができた。そのままラストで加速させ1位となることができた。

(細川奈央)



C:細川 奈央(政策2・関西大倉)
S:武安 玲佳(政策3・同志社国際)
3:落合 萌々花(法3・同志社国際)
2:奥林 涼菜(理工2・太田女子)
B:石川 裕希乃(スポ健2・箕面)

すべてのレースで自分らしい漕ぎができた。特に敗復はローアウトし、自分史上最高の



藤岡 天翔(商4・修道)

第46回

全日本大学
選手権大会

2019年 9月5日～8日

於：戸田ボートコース



レースNo.92 決勝(13:44発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	龍谷大学	4 6'39"38
②	大阪工業大学 Allegro	3 6'40"11
③	滋賀大学	1 6'44"57
④	同志社大学 A	5 6'44"81
⑤	山口大学	2 6'47"81
⑥	岡山大学 A「六花」	6 6'54"91

優勝を目指していたので4位という結果に終わったのは非常に残念。予選、準決勝、決勝とレースを重ねるにつれて状態が上向きになっていった分、決勝で競り負けたのは単純に実力の差。特に第4Qは優勝が見えかけていただけに焦りから1本ずつ自分たちで崩してしまった。この大会を通じてなにより自分たちに足りないのか明確になった。第2、3Qで2秒ずつ、第4Qで4秒詰めれば日大法政にも勝てる。特に第4Qの壁は高いが自分たちの伸びしろを信じて60日間追い込み抜いていきたい。

(谷峻登)



C:岡部 哲吾(商1・熊本学園大学付属)
S:谷 峻登(法3・東筑)
3:神宮 健輔(経済4・広尾学園)
2:竹内 努(スポ健3・松本第一)
B:大賀 拓人(理工2・同志社香里)

予選は関西選手権の顔ぶれでのレース。序盤龍大が飛び出、それを追いかける展開に。しかし大きく離され結果2着。敗者復活戦では1着通過。正念場と挑んだ準決勝。序盤は好調なレース運びだったが、中盤、藻の影響を受け失速。そこを立教大に攻められ、追い上げるも2着でゴール。順位決定戦へ。



S:清水 諒(経済4・宇部)
B:山本 幸之介(商4・三田学園)

レースNo.184 B決勝(8:32発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	大下(慶應義塾大学)	3 7'21"01
②	福森(京都大学)	4 7'30"52
③	山崎(愛媛大学)	2 7'34"17
④	藤岡(同志社大学) 【総合8位】	5 7'49"46

レースだった。結果としては8位。順位決定では疲労からエルゴ値の差が顕著に出たが、それでも今まで培ってきたことを出せたレースだったので悔いはない。といえば嘘になるがこの4年間の集大成として自分の中で納得のいく結果だった。小さくても怪我でブランクがあっても努力すれば勝てるということを証明するために漕いできた。「勝った」と豪語できるほど大層な記録ではないが、自分の4年間の締めくくりとしていいものが出せたのではないかと思う。

(藤岡天翔)

レースNo.90 決勝(13:10発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	立命館大学	4 7'33"54
②	神戸大学	5 7'39"98
③	慶應義塾大学	3 7'46"26
④	同志社大学	6 8'06"87
	滋賀大学	1 オープン

スタート時に少し並ぶことができたが、その後の第1Qで少し離され、第2Qでは完全に離されてしまい、第3Q以前は周囲に艇を感じられなくなってしまった。全員、初めてのスイープの試合となったが、良い経験はできたと思う。やはり日頃の練習において、水陸ともにコンスタントの重要さを痛感したレースとなった。

(永富千尋)



C:福井 彩夏(スポ健4・同志社女子)
S:石垣 愛衣(商2・本荘)
3:三品 真理子(スポ健2・春日丘)
2:永富 千尋(経済3・東筑)
B:谷本 陽花(政策2・津)

レースNo.186 B決勝(8:52発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	同志社大学 【総合5位】	3 6'50"41
②	龍谷大学	5 6'53"31
③	東京経済大学	2 6'56"20
④	立命館大学	4 7'05"54

順位決定戦では準決勝での悔しさを絶ち、最後のレースだと気持ちを整えスタートを切る。序盤先頭だった龍大を、中盤以降粘り強さで倒し、先頭奪取。最後は他艇を寄せ付けずゴール。1位通過、総合5位。目標であった優勝はできなかったが、自分たちの持てるすべてをぶつけた最後にふさわしい良いレースができた。今まで数々の応援ありがとうございました。

(山本幸之介)



悩み苦しんだ8十だった。始めに、4年間死守してきた関西選手権の表彰台の座を4位という結果で逃してしまったことをお詫びしたいです。日頃、ご支援いただき本当に感謝しております。ただそのご支援に対してチームの顔である対校として結果でお返しできなかったことを情けなく思っています。しかし去年の圧倒的優勝があった中、そしてインカレ日本一を目指す中で優勝以外は僕たちにとっては予選



C:山口 弘人(商4・藤島)
S:小島 佑太(商2・熊本学園大学付属)
7:西村 雅親(社会2・膳所)
6:安藤 優作(経済4・城南)
5:中村 魁(法4・洲本)
4:大谷 鋭周(文4・函館ラ・サール)
3:中野 昂太(商3・宇部)
2:黒須 脩太(経済2・真岡)
B:田川 凌大(政策4・六甲アイランド)

予選では練習の時から課題であった第3Qのタイムの落ちが顕著に出してしまった。敗者復活戦はスタートから競るレースとなったが、しっかりと相手を見て落ち着いたレースができた。準決勝は第1Qの時点でもかなりの差をつけられてしまい、相手が見えない状態での苦しいレースとなってしまう。順位決定では自分たちの強みである前半を生かすことができるよう攻めの姿勢で臨んだ。結果としては前半は相手が見える位置でのレースができたが、ラストで加速することができず、4位となってしまったが出しきれたレースができた。

(石川 裕希乃)



C: 細川 奈央(政策2・関西大倉)
S: 奥林 涼菜(理工2・太田女子)
3: 谷本 陽花(政策2・津)
2: 山本 紗奈(社会2・同志社女子)
B: 石川 裕希乃(スポ健2・真面)

第46回 全日本新人 選手権大会

2019年 10月25日~27日
於：戸田ボートコース

レースNo.124 順位決定(15:00発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	日本体育大学	4 7'36"40
②	富山国際大学	3 7'40"04
③	神戸大学	5 7'40"42
④	同志社大学 【8位入賞】	2 7'45"33



今回シングルで出場しようと思ったのは3回生の今、自分の実力「のみ」でどこまでいけるかを客観的に知りたかったからです。来シーズン、僕は対校エイトに乗り、日本一を獲る意気込みでいます。そのためには対校に乗るだけのエルゴ値と乗艇技術が必要になります。



竹内 努(スポ健3・松本第一)

第30回 関西学生 秋季選手権

2019年 11月1日~3日
於：加古川市立漕艇センター

レースNo.100 順位決定(9:20発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	山野(大阪市立大学)	4 7'24"27
②	山本(京都大学医学部)	3 7'27"99
③	斎藤(龍谷大学A)	1 7'37"18
④	竹内(同志社大学B) 【8位入賞】	2 7'38"65

す。エルゴ値は数値でわかりますが、乗艇技術はわかりません。そのためシングルで結果を出せれば自分の乗艇技術がある程度は示すことができると考えました。結果は総合8位。全く満足はしていません。ラストシーズン悔いなく終われるようにこれからもさらに努力を積み重ねていきます。応援ありがとうございます。

(竹内 努)

レースNo.185 B決勝(8:42発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	明治大学	3 7'38"64
②	同志社大学 【総合6位】	5 7'42"97
③	鹿屋体育大学	4 7'43"65
④	学習院大学	2 7'47"44

予選は比較的良好な感じで漕げていたが、勝てずに、戸田のレベルの高さを感じた。レースをするごとに良くなっている、順位決定戦に進むことができた。

順位決定戦は、常に横に他大学の艇があり、競るレース展開となったが、予選からの課題だった第2Qでの落ちを最小限に抑えることができ、明治大学が見える範囲に食いつくことができた。コンスタントからラストスパイは周りをしながら落ち着いて、かつ大胆に攻めることができた。

(山本 百華)



S: 谷 美緒(商3・同志社)
B: 山本 百華(文3・下関西)

レースNo.191 B決勝(9:42発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	法政大学	3 7'34"23
②	富山国際大学	2 7'37"16
③	東北大学	4 7'39"96
④	同志社大学 【総合8位】	5 7'43"38

予選では焦りがあつたものの、他艇が見えていたため気持ちを切らさずに1位でゴールすることができた。準決勝では予選の高レートのままのレースに不安があり落ち着きすぎてしまった。レートが上がらずレース相手が格上であつたこともあり、早い段階で差を付けられてしまった。決勝ではひとつでも上の順位をつけるため攻めの姿勢で挑んだ。前半は2位で通過したのだが、中盤で詰められ4位となった。前半から攻めていたがラストスパイでは加速することができた。4位でのゴールとなったが、出し切れたレースとなった。

(細川 奈央)



C: 細川 奈央(政策2・関西大倉)
S: 宇佐見 侑紀(文4・富田林)
3: 落合 萌々花(法3・同志社国際)
2: 石川 裕希乃(スポ健2・真面)
B: 武安 玲佳(政策3・同志社国際)

レースNo.199 A決勝(12:29発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	仙台大学	4 6'31"84
②	日本大学	3 6'33"67
③	明治大学	2 6'34"20
④	同志社大学 【総合4位】	5 6'40"27

クルー結成から約1ヵ月、順調だったとはいえず不安を抱えて戸田に乗り込みました。最終順位は4位でしたが、正直最終日に残れるかどうか不安で仕方ありませんでした。逆に言えば、予選を終えてから試合を重ねることに自分たちの漕ぎ、レースプランが磨かれていき、レースの中で成長を実感できました。まだまだ成長できるクルーでしたが、限りある時間内に高めることのできなかつた自分の責任を感じます。後輩たちには来年同志社が勝つために今回の経験を経験糧にしてほしいです。ご声援ありがとうございます。

(安藤 優作)



S: 小島 佑太(商2・熊本学園大学付属)
3: 藤原 高(法4・同志社)
2: 安藤 優作(経済4・城南)
B: 中村 魁(法4・洲本)



レースNo.202 A決勝(12:53発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	同志社大学 【優勝】	4 6'34"24
②	立教大学	3 6'35"93
③	早稲田大学	5 6'36"96
④	大阪府立大学	2 6'39"03

若いクルーで技術もまだまだでしたが、リズム感とドライブの共有を第一に、細かいところは気にせず、大きく長く漕ぐことを意識してきました。スタートで出てコンスタントで粘って詰められない、引き離す粘りの漕ぎができたと思います。大会前に怪我もあり、戸田に入ってから思うように練習ができませんでした。しかし、試合での集中力やゴールへの反応などを大切に、試合を重ねるにつれて成長することができ、結果このような成績を残すことができました。ここで慢心せず、さらなる飛躍を求めて練習に励んでまいります。ご声援ありがとうございました。

(山田 倭正)



C: 藤本 亮(政策4・桜塚)
S: 山田 倭正(法3・白鷺)
3: 中野 昂士(商3・宇部)
2: 西村 雅親(社会2・膳所)
B: 黒須 脩太(経済2・真岡)

レースNo.103 順位決定(9:50発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	関西大学A	3 7'54"61
②	関西大学C	4 8'00"21
③	大阪市立大学 さくら	2 8'02"27
④	同志社大学B 【8位入賞】	1 8'20"58

予選では、緊張のせいかあまり2人の漕ぎが合わず敗者復活戦に回ることになった。それでもなんとか敗者復活戦では、足蹴りを何本も入れて常に見ええる状態で戦えたことで準決勝に進むことができた。順位決定では、最下位でのゴールとなってしまうがこの冬練を通じて、個々の弱点の補強に努め、また来シーズン活躍できるような選手になりたい。(永富 千尋)



レースNo.101 決勝(9:30発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	山田(同志社大学) 【優勝】	4 7'15"55
②	喜寅(大阪市立大学A)	3 7'23"15
③	岡本(龍谷大学B)	2 7'25"40
④	永田(大阪市立大学)	1 7'42"38

シングルで2回目のレースでした。結果は優勝で、目標は達成しましたが、直線の進める難しさ、パワーをコントロールしながらの他艇との駆け引きやスカルルの技術的なところが課題が多く、内容的にはまだまだだと思います。来シーズンを見越し、さらなる技術向上を目指して冬のトレーニングに励みたいと思います。ご声援ありがとうございました。(山田 俊正)



レースNo.98 順位決定(9:00発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	落合(同志社大学B) 【5位入賞】	2 8'35"24
②	西村(鳥取大学A)	3 8'45"26
③	中野(岡山大学A「Betelgeuse」)	4 8'54"12
④	川上(島根大学)	1 9'07"46

3本のレースを通して、中盤以降大きく漕いで艇を進めようとする、レートが下がりがちになってしまった。もう少し序盤のレートを保ちながら軽いリズム漕ぎきれるようにならないといけないと思った。疲れてくる後半、重いリズムになりがちなので、もっとドライブスピードを上げて、ドライブでしっかり艇を進める意識を持つことを冬季練で頑張りたい。試合前に重点的に練習したスタートについては、比較的初めから前に出ることができた展開が多かったので、よかったのではないかと思います。(落合 萌々花)



上回生1人と1回生3人のクオードでした。ストロークの山川はハンズアウェイセットが甘く、パドルの際に後ろのクルーとシートスライドが合わないことが多々あったそうです。フォームを意識したエルゴを今後も実践してほしいです。谷本はオールのリズムが良かったので、下がり意識を重点的にしました。対策として幸之介さんからお勧めされたエルゴメニューを試しました。足で押すイメージを持ち続けてほしいです。鹿間は体格を生かした漕ぎがあまりできていないと思いました。大越さんと武田監督に見てもらったところ、リギングに問題がありました。もう少し状態が柔らかくできたらいいと思います。全体としては、体力はあるので後半が強いのですが、前半で他艇に出られてしまうので追いつくことからレースが始まりました。最初から船を立てていきたいです。低レートの水中がなかなかでないのも課題なので、UTなどを大事にしたいです。私自身はラダーワークを改善していきたい



レースNo.105 順位決定(10:10発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	関西大学	3 6'38"31
②	同志社大学A 【6位入賞】	2 6'44"34
③	甲南大学B	1 6'49"54
④	大阪市立大学 志	4 6'53"38

予選、敗者はスタートで出るという計画だったがそれが裏目に出て、2レースともスタートを失敗して大きく出遅れてのスタートになってしまった。しかし自分たちの強みであるコンスタントで抜くことができた。準決、順決はスタートを置きにいつてコンスタントで抜くという作戦に変更したおかげで、スタートで置いていかれずについていくことができた。そして作戦通り焦らずコンスタントで抜き、ラストで引き離す理想通りのレースができた。最後の2レースは出られても焦らず漕げ、内容、結果ともいい集大成になった。(三沢 康太郎)



レースNo.112 順位決定(11:20発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	同志社大学 【5位入賞】	3 7'01"85
②	大阪大学B	2 7'06"99
③	京都大学A	1 7'08"78
④	神戸大学B	4 7'20"23

です。漕手の負担にならるように日頃の練習から丁寧な扱いにしたいです。また、レースレートの管理や漕手が力を出しすぎないように、コーンも心掛けたいです。(門倉 由奈)



レースNo.115 決勝(11:50発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	関西学院大学	3 5'33"76
②	京都大学A	2 5'36"36
③	同志社大学A 【3位】	1 5'37"28
④	大阪大学A	4 5'38"48

く言われていた、個人個人の良くない漕ぎが多く出てしまい、スタートからゴールまでほとんどフラットではなかった。決勝以外は今日の調子でよかった部分があったが、決勝は今の自分たちの最低ラインの漕ぎだったため、最低ラインを上げていくことが今後の目標であると考えた。(小森 一般)

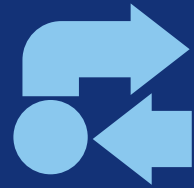


レースNo.104 決勝(10:00発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	大阪市立大学 冠	3 7'19"79
②	同志社大学A 【準優勝】	4 7'21"06
③	愛媛大学	2 7'27"75
④	関西大学B	1 7'43"30

クルーを組み始めて2週間足らずで、全開放流などの影響によりまともに練習ができなかった。時間が足りない中で、シートの動きを合わせきれなかったのが、大阪市立大学に勝てなかった敗因であると感じる。予選ではスタートから一歩リードされていたが決勝では並ぶことができ、余裕を持ったリズムで漕ぐことができた。しかしラストスパートでの追い上げが上手くいかなかった。(谷 美緒)





株式会社 王子製作所

船舶用艀装部品・建設機械部品
並びに各種製缶加工・一般建築鉄骨施工

本 社 兵庫県加古郡播磨町新島23番地
TEL (0794)37-1600(代)
FAX (0794)35-6181

丸亀工場 香川県丸亀市垂水町2747番地
TEL (0877)28-7004
FAX (0877)28-5162



大賀 拓人(理工2・同志社香里)

第69回 東日本 選手権大会



2019年 11月9日~10日
於：戸田漕艇場

予選C組。スタートで安定したスパートができず、ブイに何度か当たり、思うように出られなかった。しかしコンスタントに入り安定してしばらく漕いで500mから逆風に変わり、そこから少しずつ抜いていき1500mまで1位。そこからさらに離す形になり2位と2艇身差ほどつけてゴールした。

レースNo.42 決勝B組(10:35発艇)

順位	クルー	レーン 2000mタイム
①	大賀(同志社大学) 【総合7位】	4 8'08"47
②	谷内(東京医科歯科大学)	3 8'10"88
③	秋葉(法政大学太)	6 8'12"85
④	菊池(茨城大学)	5 8'15"84
⑤	森永(東京工業大学)	1 8'25"54
⑥	榊原(東京医科歯科大学)	2 8'29"94

ラストスパートをかけて、追いつこうとしたが追いつききれずに4位でゴール。連戦のための体力不足と、スタートの技術のなさが敗因。

決勝B組。スタートはかなりよかった。2位か3位がついてきて、厳しいレース展開だった。最後まで2位と1艇身差あるかないかで気を抜けないレース展開だった。しかし、大会期間中一番安定していいレースができたと思感した。

(大賀 拓人)



2020年度

強化計画



主将
山田 俊正

1. 来シーズン目標

男子はスウィープとスカルの対校クルーであるエイトと舵手なしクオドルブルでA決勝進出。女子は対校舵手なしクオドルブルでA決勝進出。そして、過去最多クルー（男子4クルー以上、女子2クルー以上）が最終日に進出することである。現実的に不可能なものではなく、現在地点から可能性のある目標を立てた。

今シーズンはスローガンに、ラテン語で「頂、大洞、旋風」を意味する「VERTEX」を掲げた。「頂」を目指すに相応しい姿勢で練習に取り組み、生活面も高い意識をもって行動すること。そして、競技面では日本

2. 冬季練習の改革

① 低中レイト指定のエルゴメニュー

近年の同志社大学ボート部は、フィジカルトレーニングでパワーを付け、そのパワーを水上に生かす方針であったが、パワーはあるものの水上に生かされてない、特に高レイトでの技術的な課題があると感じていた。低中レイトで正しく・強く漕がない選手は、高レイトでも同様に漕がない。

そこで、エルゴメニューを低中レイトに指定し、フォームの確立と低中レイトの中でしっかりと出力を出すことに重点を置いた練習を長距離の中で行い、基礎技術の再確認と高レイトへの確固たる土台を作る。闇雲に漕ぐのではなく、パワーをコントロールしながら「考えて」漕ぐことで、陸上で行ったパワーを最大限にエルゴや水上に反映させる。

また、R P 3 エルゴの台数増加により、陸上でも水上に近い練習が可能になったことから、非効率な平日早朝の長距離乗

艇を廃止し（週末のみ乗艇を行う）、ランメニューやサーキットメニュー・R P 3 エルゴやコンセプトエルゴを用いた長距離・有酸素系の低中レイトメニューを代替的に行う。

② 20分TT測定によるグループ分け

部員の増加により、各個人の練習時間・練習量の低下による体力値の停滞や低下が問題となっていた。全日本大学選手権での目標を達成するためには、他大学と比較してもエルゴスコアの向上が不可欠である。

そこで毎月（11月と12月）20分TTの測定を行い、その結果に応じて、Aグループ（全日本大学選手権出場ライン）とBグループ（基礎体力・技術養成）に分け、グループによってエルゴや筋トレのメニューを変更する。

具体的には、両グループとも、基本軸に有酸素系の長距離メニューを行うことは変わらないが、Aグループは、スプリントメニューを部分的に取り入れ、より実践的な練習を行う。Bグループは基礎体力や技術の向上を目指す。結果、下位層の育成を行うと同時に、各個人のレベルに合わせた効率のいい十分な練習を行えるようになる。また、部内での各個人の位置が確認でき、全日本大学選手権を常に意識させることで、さらなる部内競争を図る狙いがある（1月以降は2000mTTの測定で同様

にグループ分けを行う。

また、結果に応じてメンバーを入れ替えることで、高いモチベーションを保った練習が行える。

3. シーズンを見据えて

かつてと比べれば、部内での競争は活発化したが、他大学と比較した自分の現在地・目標を達成するために必要なレベルを知る機会が少なく感じていたため、今年是他大学との交流を積極的に行う。現在、ヘッドオブ瀬田に向けて、京都大学・龍谷大学との混成クルー（エイト3艇、舵手なしクオドルブル2艇、付きフォア1艇、ダブル1艇）を組んで練習している。近年では初めての試みである。

また、2月に、昨年度エイトで優勝した中央大学との合同練習や強豪の立教大学との交換合宿を予定している。他大学との交流を通して、戦う相手を意識すると共に、漕法・リズムや艇の進め方などさまざまなことを積極的に吸収し、日頃から他大学のレベルを意識した練習を行っていく。

新歓隊長の視点



今シーズン、関西選手権において女子舵手付きクオドルブルが初の関西制覇を果たしました。集大成である全日本大学選手権では同志社大学ボート部史上最多の5クルーが最終日に残り、男子舵手付きフォアでは悲願の日本一を達成するなど男女ともに新たな歴史を刻むことのできたシーズンであったと感じます。このような戦績を収めることができたのは、お忙しい中、日頃から私たちにご指導ご鞭撻頂いている監督、コーチ、OB・OGの皆さまのお陰であると感謝しています。

また、毎年私たちが自身も熱気を帯びている新人獲得による部員数の増大で、部内競争がますます激化していることとお互いが良き好敵手関係を築けているからだと思っています。実際にOX盾レガッタにおいてもエイトBには1回生が3人、エルゴでも上回生も下からの追い上げに負けていられないと燃えています。新人獲得においては我が部の強みであります。来春の新人獲得も私、新歓隊長を中心として新たな戦力獲得に全身全霊を込めて臨む所存であります。

話は戻りますが今シーズンも新しい歴史を多くつくることできました。男子付きフォアも日本一を達成し、嬉しい気持ちもありました。しかし、目標でもあった『対校エイトの日本一』は、私たちだけでなく、歴代の先輩方の夢がまだ残っています。

来シーズン、今年以上に同志社が戸田の地で



堀 啓造

経済学部経済学科
岡山県浅口市立
金光学園高等学校出身

『旋風』を巻き起こすためには、今以上に厳しい試練に立ち向かわなければならぬと思います。そのために私は今以上に漕手が艇を速く進めることに集中できる環境づくりが必要であると感じます。新体制になってから組織の細分化に取り組むことで、これまでよりも各部員が責任をもって行動できています。しかし、細分化されたことでプラスが多く出てきたことに比べ、サポート陣の人数が足りていないというマイナスの面も顕著になってくるようになりました。

この問題を解決するために私は来春の新人獲得において、新たな戦力獲得は絶対として共に『日本一』を目指すことができて、『日本一』を目指している漕手を本気で支えてくれるサポート陣の獲得と、現在の大きな問題のひとつである男子COXの獲得の2点にも力を注いでいくべきだと考えています。そのためには新人獲得の期間までに私たちにあってサポートとはどういったものなのか、よりサポートという存在を新入生に知ってもらえる対策を考えていきます。

来シーズン、そしてその先で同志社大学ボート部が新たな歴史を作るための一歩として私自身ができることはまず、先ほど述べさせていただいた新人獲得を成功させることが使命であることを念頭に置いて準備を行なっていきたいと思っています。

未熟ゆえに至らぬ点が多いと思いますが、何とぞご指導ご鞭撻のほど、よろしく願っています。

がんばれ、同志社大学!



共に運びます！
個性と絆を・・・
最高の熱量をもったあの場所へ

—信頼と実績の輸送—

広栄運輸株式会社

〒664-0006 兵庫県伊丹市鴻池 4-3-3

【お問い合わせ】

TEL : 072-779-7008 (代表)

FAX : 072-779-7117

Mail : kawamoto@koueiunyu.com

URL : http://www.koueiunyu.com/



第12回 全日本 マスターズレガッタ

2019年6月1～2日 於:大阪府立漕艇センター

今回の取材を通してOBの先輩方から共通に出てきたのは「楽しい」という言葉だった。どの先輩方も生き生きとした様子で参加している姿が印象的であった。これからももっと多くのOBの皆さまにも参加していただき、OBとしての活動、そして漕縁が広がっていかばと感じた。

今回の取材を通してOBの先輩方から共通に出てきたのは「楽しい」という言葉だった。どの先輩方も生き生きとした様子で参加している姿が印象的であった。これからももっと多くのOBの皆さまにも参加していただき、OBとしての活動、そして漕縁が広がっていかばと感じた。

関東を中心に「団塊号」というチームで活動をしている小関先輩は、5年前のマスターズの大会をきっかけに再びボートを漕ぎ始めた。翌年の大会で他のチームとして参加していた小森先輩と偶然再会を果たしたことを機に、同志社のボート部OBからもっと一緒にボートを漕ぐ仲間を増やそうと呼びかけるように。そのおかげで、かつては同志社からは2人だった参加者が今大会では22人まで広がった。

またOBとして漕ぐことは、現役の時に感じていた勝利や練習へのプレッシャーや緊張感を感じることなく純粋にボートを楽しみ、体の面でも元気になることができることも語った。

今回、浜寺マスターズとして参加した林田先輩は、OBとして漕ぐようになり、ボートを通じて他大学OBや他団体との交流の輪が広がり、「漕縁」が広がったという。

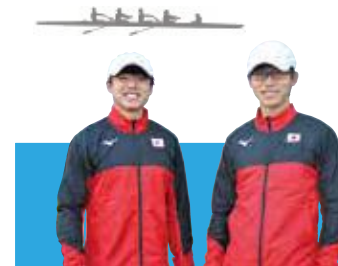


2019年 アジアボート選手権

2019年10月23日～27日 於:韓国・忠州

男子ダブルスカル

S:清水 諒 (経4・宇部) B:山本 幸之介 (商4・三田学園)



予選
4位→敗復
(6艇中4位)

敗復
4着→B決勝
(5艇中4位)

B決勝
3着
(6艇中3位)

総合9位

10月24日、初めての海外の地、意気込んで臨んだ予選レース。序盤、香港と韓国に大きく出られる。事前にコースの各地点と風景をクルーで確認していたものの、地点感覚が狂い理想の体力配分を保てず、減速する場面が多かった。午後の敗者復活戦へ。

午前中からの間隔が狭く、休憩が取り辛かったが、午後のレースでは意外に体が動き、予選より理想のレースプランに近づいた。韓国、ウズベキスタン、フィリピンに次いでこのゴール。B決勝に回る。10月27日、初日の日程から2日空いてのレース。反省と課題克服を充分行えたことや、陸上での入念なアップが成功し、B決勝は他艇と横一線の快調なスタートが決まる。徐々にフィリピンに先頭をリードされ、カザフスタンとの2位争いの展開。1000m付近でピッチが落ち水が開き、3位の状況が続く。終盤台湾の追い上げを僅差で制し、3着でフィニッシュ。総合9位。

今大会の結果はおおよそ自分たちの力量相応のものと思う反面、より高みに行けたと自分たちの可能性をさらに感じるものもあり、総じてまたとない素晴らしい経験となった。

数多くのご支援、ご声援、本当にありがとうございました。
(山本 幸之介)





特別
寄稿
special
contribution

Rowing Transcendence



Bill Stekl
Head Rowing Coach, Amherst College
Amherst, Massachusetts

ローイングにおける超越



ビル・シュテクル

米・マサチューセッツ州
アーモスト大学 ボート部ヘッドコーチ

私が尋ねられて最も困るのは、日々何をしているのかと聞かれるときである。私がローイングのコーチをしていることに恥じているからではなく、ローイングとは何かを説明する義務があるからである。ローイングについて知らない人のほとんどは、このスポーツを身体が奏でる詩のように見ているところがあるが、そう思っていたらそれだけでよいと思っている。ローイングをする環境というのはたいてい田舎な場所、そこは川が大草原を二分するような所や、山中から流れてきた静かな湖水などであり、このスポーツの難しさはあるとしても、よく鍛錬したクルーが水を一筋に切り裂くように漕ぎ進むのを見るのは、単純に美しいものである。おそらく詩というものは私たちのスポーツを説明する、あるいはボートをどううまく進めるかを可視化する上で最も効果的な例えになり得るのだ。詩は真理にたどり着くのに謎めいた部分がある。ゆえに、ローイングを説明するために、詩のような難解で複雑なものを例として挙げるのは合理的であると思うのだ——ローイングは身体的にも精神的にも鍛えられるスポーツであるが、苦痛が勝り飲み込まれてしまうため、美しさなどは消えてしまうのである。ローイングは詩のような美しいスポーツだと誰かが言ったとき、エルゴの2Kテストがどれだけ酷いかや、ヘッドレースのゴール直前で競り負けた瞬間

の悔しさのことも、いったん忘れて、美しいスポーツであるということを通しては柔軟に受け入れるべきであるかもしれない。また誰かが、私たちが全力でパドルをしている横でピクニックを楽しむ男女が「ローイングは格好の良いスポーツだ」というならば、逆らわずうなずいて同意した方がいいのかもしれない。

ローイングを身につける上で最初に



すべきことは、すべての余分な動きを排除することである。選手がより高度な技術を身につけられるようになるのは、複雑な工程を踏んでいるのではなく、取り除いているからである。ローイングは単純で簡単な動作を極めるからこそ、細かい修正を何度も行うのである。私はこの過程を「足場を取り外す作業」と呼んでいる。本質的な部分が残るように、動きを解体し細かい部分に修正をかけていくのだ。ローイング場合、水上で艇を運ぶための動作のみを極める。初めて何かを学ぶとき、それを得るために私たちは周りに壁を作ってぶつかって得ようとする。このサポート体制がもしプロセスの中で存続してしまうのであれば、成長を妨げてしまう。できた足場を解体するからこそ、成長できるのである。

例えば新しくローイングを始めた選手はぎこちない単純な動きから始める。キャッチを取りに行き、ドライブを押して、フィニッシュでバランスを崩す、そしてオールは必然的に円に沿って動いている、こんな漕ぎ方になるであろう。この実に酷い漕ぎ方をするのは、その選手がそれをかっこよく、気持ちいいと思っているからである。筋肉が傷められている感覚やしんどさで、それがいかにもいい練習である、と感じてしまうからである。このような感覚で何キロも漕ぎ続けると、本当のしんどさがわかる。そ

して、そのしんどさがわかった時に、ローイングを悟れるのである。両足がストレッチャーに引きつけられて、サスペンションを維持するためにボディを支えて、腕でフィニッシュを引き切って、ボディをナチュラルに返して艇に引き付けられるようにフォワードをする。ローイングにおける超越とは選手が見えないものを見始めた時に、見ていたものを見逃してしまうと言ったことだ。これは、艇が抵抗なく進むように見える、いわゆる「スイング」と呼ばれるゾーンで、そこにいる選手たちにとっては日常的に経験なのである。この現象によって酸素を体内に取り入れることを忘れてしまふ人もいるぐらいである。漕手とコックスはほぼ毎日の午後を一緒に過ごし、この経験を共にするのである。多くのスポーツではこの瞬間はあまり来ないが、ローイングでは訪れるのである。夕暮れ時にクルーが漕いでいるのを見るのは、見ている側も力づく。何ストロークも漕いで、疲れて艇庫に帰ってくるが、その時のクルーの表情は空腹と共にくる嬉しさや達成感で溢れている。この瞬間とは彼らの意識が一番はつきりしているときで、理解を深めるにおいては一番いいタイミングなのである。つまりこの時に彼らは自立して学ぶことを学ぶのである。艇を進めるには、考える能力も必要なのだ。これが、私たちが漕いでいる理由なのではないのか。



艇友会 インタビュー *interview*

バランス・信頼感・ 闘争心は『三位一体』

昭和 57 年卒
林田 尚之 先輩

林田先輩 2 回生の時の関西選手権が忘れられない思い出です。私はジュニアエイトの整調でした。対校エイトとともに決勝に進み、結果は対校が準優勝、ジュニアが 4 位でした。対校に乗っていた先輩に「この銀メダルはお前たちのものだ」と言ってもらったことがすごく印象的で覚えてい

いますか。

林田先輩 ボート部にどっぷりの生活を送っていました。モーションのポリウムもぎつかったですが、それもそのうち当たり前の生活になっていき、同期や先輩、後輩とも仲が良く、楽しいと感じていたので辞めたいと思ったことはありませんでした。ボート部での生活が大学のすべてでした。

ボート部での生活はどのようなものでしたか。

林田先輩 高校ではサッカー部でしたが、大学では何か違うスポーツをしたいと思っていました。体育会の部活動紹介の中でボート部の紹介を聞いた際に、学業との両立ができる（笑）、部員の人たちが親切だったこともあり、どんなスポーツなのか知らずに入りました。

ボート部に入ったきっかけを教えてください。

林田先輩 頑張っていると思います。監督の方針のもと、現在の部員数がいるのは間違いない素晴らしい成果だと思います。小艇であるうとスカルであるうと、勝つこと

最近の戦績についてどう感じておりますか。

林田先輩 バランスだと思っています。バランスと信頼感と闘争心は『三位一体』です。バランスが悪いと信頼感が崩れてしまいます。誰がバランスを崩しているのかという疑いが生まれ、闘争心の低下につながり、さらに悪くなるという悪循環が生まれます。仮にバランスが崩れたとしても、闘争心欠如の最初の 1 人になってはいけません。

ボートを漕ぐ上で大切なことは何だと思いますか。

林田先輩 全部、100% が役に立っています。合宿生活を送る中で、いろいろな人や価値観があることを学びました。さまざまな価値観の中で、その違いをいかに楽しむかというのを学んだのがボート部でした。そういう意味で、合宿生活は人の成長に非常に役立つと思います。

ボート部での経験が役立ったことはありますか。

まず。このジュニアクルーで 120 分ロングパドルを漕ぎ切ったことも自信につながりました。



Rowing Transcendence

Bill Stekl

Head Rowing Coach, Amherst College
Amherst, Massachusetts

One of my most feared social moments is when someone asks me what I do for a living. It gives me pause not because I am ashamed to be a rowing coach, but because I am then tasked with providing an explanation of what rowing is. Most folks who don't have a clue about the sport see it as a form of physical poetry. I usually allow them to play with this thought for a bit. After all, the settings in which we row our shells often occur in bucolic theaters where rivers bisect hayfields, or hardwoods, or we disturb lake water that is coddled within mountains. It most certainly is aesthetically pleasing to witness a well drilled crew slice through a ribbon of water that would leave the uninformed questioning the difficulty of our sport. Perhaps poetry can be a good analogy to explain our sport, or at least it can be an effective smokescreen to explain the intricacy of how we leverage a rowing shell. It seems reasonable to choose something equally esoteric and complex like poetry because it creates a bit of mystery that helps to circumnavigate the truth---rowing is brutally hard, and the aesthetics evaporate when we are swallowed-up by pain. Maybe we should keep an open mind when we hear someone say that rowing is poetry in motion, and not provide a knee-jerk explanation about how god-awful a 2000m erg test is, or how unappealing it is to lose our cookies within sniffing distance of a head race finish line. Maybe that is where we should leave it, and simply nod in agreement when someone proclaims that rowing is a pretty sport for men and women who might enjoy a picnic while paddling in their boats.

The process of learning how to move a rowing shell begins with the eradication of all superfluous exercise. The athlete becomes more skilled, not because we add more complexity to the process, but because we remove it. We revise, revise, revise until we find pure, simple, connected movement. I call this process the removal of scaffolding. We deconstruct the task, or object of study so that only the essence remains. In the case of rowing it is to identify only the necessary movement that delivers progress. When we learn something for the first time we build infrastructure around us so that we have something to lean against. This support network, though comforting, becomes debilitating in learning development if it is allowed to remain a part of the process. Once the scaffolding has been deconstructed only then can learning commence.

For example, the new rowing athlete begins with awkward, gross movement: he dives at the catch, he lifts on the drive, he collapses at the finish, and the oar inevitably moves in circles as if paddling a row boat.

Let's also not forget a new coxswain's fervent desire to haphazardly tug on the rudder cable to and fro because somehow the shell doesn't change direction soon enough until it does too much. The new rowing athlete makes these egregious movements because it feels good. The stroke feels longer, the muscles feel taught and engaged, and be damned, it feels like a workout! They are also trying to viscerally come to terms with understanding a machine that appears profoundly lawless. It is down to port, starboard, port, no, both at the same time! They endure episodes of interminable rush because some individuals, always in the bow, cannot contain their joy to receive the next catch. They lose skin from various body parts because the beast that they are tasked to contain takes indiscriminate bites out of them. It continues this way until they spend many, many kilometers together, and then the moment arrives when they cannot separate their skin and bone from the carbon carcass that envelops them. Somehow the beast that they once feared no longer exists because they have become him, or it has become them. Rowing enlightenment has begun. Movement commences seamlessly. Pairs of legs together squeeze against the footboard, torsos uncoil to maintain suspension, elbows pull the long levers through at the finish, and then organically, bodies swing forward, and move into the hush of water gurgling beneath the hull of the shell. Transcendence ensues when rowing athletes begin to see things that are not there, and they will miss seeing things that are there. This is a routine experience for rowing athletes who exist in that sublime zone we call "swing", when the shell seemingly moves without effort. This phenomenon also occurs for some who might eschew the benefits of oxygen because some of us forget to breathe when making these efforts. Rowers and coxswains will spend many late afternoons together experiencing these peculiar things until the onset of fatigue resigns them to move instinctively. Ethereal moments don't arrive in many sports, but they do in rowing. It is empowering to watch our crews on any late afternoon accelerate through light that fades to dusk, past the weeping willows above the north bend that are pulled this way and that way by the wind before they are extinguished by darkness. One stroke, another stroke, one more until they are delivered to the boathouse hollowed-out, happy and hungry. That is the moment when they are fully conscious, and clarity follows that allows them to better understand things. This is when they are fully suspended by nothing, and have learned to support themselves. They are bodies connected to bodies connected to a machine. Moving the body also moves the mind. Isn't this why we leverage ourselves forward in a rowing shell?

Warm Regards,



▲ 2016年9月、第42回全日本大学選手権にて。松本先輩はバウ。

松本先輩 大きく分けて3つあると思います。ひとつは時間、ふたつ目はお金、3つ目は結果。

ひとつ目の時間に関しては、自分で意識して時間をつくらなければ生まれないうと感じます。社会人になって1日の拘束時間が増えていくと、自分の時間(自分のしたいことや自主学習等)の創出は難しくなります。そういった意味でぜひ、皆さんには学生の間に自分のしたいことをすべてやってほしいと思います。

― 松本さんの考える学生と社会人の違いは何ですか。

常に注目を浴びている業界だと日々実感しています。人手不足を補うために、AIやロボティクスの導入は進む一方で、なかには人手が必要不可欠な仕事もある業界でもあるため、その時代に合った形で最大のValueを生み出すことを心がけながら日々業務に取り組んでいます。

松本先輩 圧倒的に勉強面、知識不足を痛感する日々です。同期にしる、周りは賢い人だらけです。入社前、あるOBさんに「お前はこれから戦場に行くんや。とにかく勉強せなあかん」と言われたのを鮮明に覚えています。今になって、学生時代あまり勉強しなかったことを後悔しています。

学生時代、よく「ボートだけ漕いでりやいいんじゃない」と言っていたにもかかわ

― 社会人になって苦労したようなエピソードはありますか。

松本先輩 まず早起きですね(笑)。当時ほど、朝早く起きることはありませんが、早起きが体に染みついているのでどんなに遅く帰っても朝は大丈夫です(笑)。

ふたつ目は、ファンを作ることです。親に

松本先輩 営業支援系部署ということもあり、直接的にお金を稼ぐことはありませんが、少しでも安い輸送費を仕入れてきたり、保管料を削減する施策を考案することで営業部の利益、ひいては会社の利益に貢献できた瞬間はやりがいを感じます。

あとは、やりがいとは少し違うかもしれませんが、商社という業界であることもあり、さまざまな職種の方(メーカーや船舶倉庫、港湾等)と関わる機会が多いため、いいことも悪いことも人から学ぶことができます。何を考え、どういった思いで働いているのか、困っていることは何かなどを現場の生の声を聞くことで自身のモチベーションアップにも繋がっています。

― 社会人になりやりがいを感じるようなことはありますか。

まず、勉強は疎かにしていました…。です。で、現役の皆さんには、ぜひボート部員の身分である「ボートと勉強」の両立を頑張ってほしいと思います。

1日10分でも、4年間経つと大きな武器になっています。継続は力なりです。

松本先輩 ボートやそれ以外のことは一生懸命にやってくれていると思うので、今さら頑張れとは言いません。あえて言うならば、「周りに感謝していますか」ということです。漕手にしる、サポート陣にしる、今置かれている状況に感謝していますか。当たり前だと思っと思っていますか。皆さんの「いまは、さまざまな支援やサポートの上に成り立っています。ボート部員である前にまず人としてすべきことが必ずあると思っています。口に出さなくとも各々が心の中で思っければそれに見合った行動に必ずなっていくと思いますので、日々周りへの感謝を忘れないで下さい。ぜひ、競技だけでなく、人としても日本一を目指して頑張ってください。競技・生活含め、ボートは人間形成を可能にする最高のスポーツだと信じています。皆さんのますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

― 最後に、現役へひと言お願いします。

しる、先輩・後輩にしる、OB・OGさんにしる、地域の方々にしるどんな形一試合に勝つ、ご飯をご馳走する、地域の清掃活動等―でもよいので、ファンをたくさん作ることで、応援してもらいようになり、それが力となって結果に繋がったと思います。

僕自身、「会社の看板を外しても戦える人間でありたい」と思っています。松本が売る商品だから、松本と一緒に仕事がしたいからと言って「僕自身」を買ってくださいるお客さん(ファン)をひとりでも増やすべく、今は日々ファン作りに奮闘していますね。

若手社会人の今

interview



自分のしたいことは学生の中にすべてやってほしい。

平成30年卒 松本 直弥 先輩

― 現在どのような仕事をしていらっしますか。

松本先輩 コーポレート物流部という営業支援系部署に所属しながら、全社および関係会社取り扱いの輸入貨物(主に食品)の輸送企画や国内物流の最適化といった物流企画に携わっています。

輸送企画では、より安いコストで輸入するために輸送費の交渉(日々、数ドルの値下げ交渉)を行ったり、より質の高いサービスを得られる輸送媒体の検討・選定等を行っています。物流企画では、物流配送網の検討・構築、国内在庫の適正化・省人化等に取り組んでいます。昨今、少子高齢化(労働人口不足)や輸入貨物の増加が顕著ということもあり、いま「物流」業界は非



自分とは違う価値観や未知の世界・新しい環境でどう生きるか…それが『アウエイの流儀』です。それを伝えるために書きました。ぜひ読んでください。



まずは左のQRコードで動画をCheck it out!(チェックラ!)

(林田先輩執筆の新書『アウエイの流儀』は、大手書店やAmazonなどで購入できます)

が大事だと思います。

ただ、エイトの素晴らしさというのは、学生に感じてほしいです。ボートではユニフォーム、同一性が重要です。うまく体キャッチ、フィナルが合い、艇が進みだすという感覚を味わえるのがボートならではの素晴らしさだと思います。当然これは人数が増えるにつれて難しくなります。エイトの一体感をぜひ味わってほしいです。そういう意味でもエイトが最終的な目標となればと思います。

― 最後に、現役に伝えたいことがあれば

お願いします。

林田先輩 自分は何故ここにいるのかというのを考えて欲しいです。それは、勝つため「艇速を出すため」です。漕手、トレーナー、マネージャーがそれぞれの役割の中で艇速につなげるために、何ができるのか、今していることが艇速につながっているのか、というのを常に考えて欲しいと思います。部員全員が、同じ目標につながる行動をすることができたなら、同志社大学ボート部はもっと強くなるのではないのでしょうか。

✦ 卒業生の言葉



中村 魁

KAI NAKAMURA

法学部法律学科
兵庫県立洲本高等学校出身

毎日筋肉痛、手に血マメ、どこでもボートの動画をみていましたが、同志社大学ボート部での記憶は、ある意味薄いかもしれません。逆に高校時代は、近くのマルナカでランニングの時間を潰したり、エルゴメニューの量を勝手に減らしたりとなかなか困った学年だとよく怒られたのを覚えています。引退して振り返ってみると、私はそれくらい必死だったんです。日々考え、メニューは無我夢中で終われば疲れて寝る。現役の時は楽しむことがモットーでボートが滑る感覚や、筋トレの重量が上がっていくことを誰よりも楽しんでたはずが、心のどこかにある不安や焦りが必死にさせていたんだと初めて知りました。

私が現役に言いたいことは、「自分が必死だ、本気だと思っている時はまだそうではないかもしれない」ということです。必死なんてものはその最中に気付けるものではないのです。頭で考えないがむしゃらさ時には必要だと思います。一度考えてみてくれたら嬉しいです。

少し迷言になってしまいましたが、監督、岩井さん、堀田さん、OB・OGさんなどお世話になった方々、充実したボート人生を送ることができました。ありがとうございました。



藤原 嵩

TAKASHI FUJIWARA

法学部法律学科
私立同志社高等学校出身

一生の誇り。このボート部で過ごした4年間。園さんに勧誘されボート部に入部し、4回生のインカレ決勝までの1220日。ボートの楽しさに気づいた日。加古川に向け猛練習した日。大敗し今までの練習を疑い呆然とした日。初めて勝ち同期、桑原さんと大喜びして抱きあった日。関選の選考に負けた日。古賀さんの最後のインカレで負けて大泣きした日。新歓が成功し安堵した日。初めて決勝に上がった日。初めて表彰台に上がった日。初めて優勝した日。0.5秒に泣いた日。同志社を強くすると強く誓った日。悩んだ日。ボロ負けしてわけがわからなくなった日。今までの自分に勝てず苦しんだ日。ぶつっと何かが切れた日。同期の涙、優しさを見た日。先輩の優しさに触れた日。もう一度頑張ろうと思えた日。三木が今までで一番ボートが楽しいと言ってくれた日。魁に怒られた日。悩み悩み悩み抜いた日。A決勝に進み4人で抱きあって喜んだ日。4位となり今まで以上にいろんな感情が込みあげ、いろんな人に心の底からありがとうと思い引退した日。多くの感情が渦巻いた一瞬で過ぎ去った1220日。多くの人に支えられやりきることができました。ありがとうございました。



安藤 優作

YUSAKU ANDOH

経済学部経済学科
福岡県立城南高等学校出身

まずは4年間支えてくださった監督やコーチ、先輩、そしてなによりこの生活を見守ってくれた両親には感謝しています。同志社大学ボート部としての4年間を終えて達成感もある一方で、寂しさや悔しさも残りました。喜怒哀楽だけでは表現できないようなさまざまな経験をし、他では経験できない贅沢な生活を送ることができました。

同志社大学ボート部の変遷の時期に入部し、部員数や成績など毎年目まぐるしく変化し成長していく中で、自分たちがこの部に何かを残すことができたのかはわかりませんが、この128年の歴史を次へと繋ぐことができただけでも誇らしく思います。

たった500文字では書き表せないほど充実していた4年間を過ごし、叶うならもう一度同期が全員いる合宿所に帰り、ダイニングのテーブルを囲ってご飯を食べたいです。思えば楽しいときも苦しいときも、どんな時も周りには同期がいました。そんな同期に出会えたことが僕のかけがえのない財産です。4年間ありがとう。



大谷 鋭周

EISHU OHTANI

文学部英文学科
函館ラ・サール高等学校出身

異常でした。3年半という、最後の学生生活のほとんどの年月をここで過ごし全うした今、思うことは、「異常だった」と。朝4時に起きる。毎日ハードな練習をする。そんなことを言っているのではなく、毎日もぐら叩きのように次から次へと何かに奔走し続けている精神状態こそが常ではない、異常だと思うのです。頭の片隅に次の日のモーションを残しながら過ごしたオフ。ボートを忘れられるのは、日曜日のビール1杯目だけで、そのあとは結局ボート部の話に。取り憑かれたように目の前の課題や仕事に夢中になってたあの頃は、俯瞰する自分を完全に失っていて、今では言葉通り長い夢の中にいたようだったと感じます。

しかし、現在の休み休みに勉学とバイトに精を出す「正常」な日々はどうも肌に合わないようです。何かに没頭し、頭の中ではグルグルと悩みながらも、何事もないかのように振る舞い、皆とテレビに文句をつけながら飯を食う。そんな毎日がいかに価値のあるものだったかを実感します。思い返せば入部の理由も「何かに情熱を向けたかったから」でした。我を忘れるほどの熱い想いはネクストステージへ持って行きます。大変お世話になりました。



Lumiebre

AEHANDKERCHIEF CO., LTD. tel: 0795-48-2031 <http://www.lumiebre.jp>



大谷 大

DAI OHTANI

経済学部経済学科
大阪府立高槻北高等学校出身

まず初めに、今まで温かく応援してくださったOB・OGの皆さま、ありがとうございました。そして、目標となる姿を見せくださった先輩方、自分も負けてられないと思わせてくれた同期、後輩には感謝してもしきれません。

先輩方も仰っていたことですが4年間は本当にあっという間でした。そんな中で私は「努力をし続けること」が一番大切だと感じました。どれだけ負けても、うまくいなくても継続した努力は難しいです。しかし、努力して挑戦し続ける姿は部員が100人もいたら誰かは見ているし、そういう熱が全員に広まっていき素晴らしい組織になるんだと思います。そしてその姿を試合等で外に見せることで感動を呼び応援していただけになるんだと思います。

後輩の皆さんにも感じたことがあると思います。2000ttでベストを出した時、周りに人がたくさん集まっている風景を。頑張る姿は多くの人を惹きつけるんだと思います。私はそんな姿を見たいしFacebookにいいねしたいです。

最後に、人生で考えると4年間は短いですがそれは死ぬときに思い出せばいいと思います。部員の皆さんには二度とこない「今」を全力で頑張ってください。応援しています。



清水 諒

RYO SHIMIZU

経済学部経済学科
山口県立宇部高等学校出身

まずはこれまで応援してくださったすべての方々、ありがとうございます。私は0歳から15歳まで水泳、中学時代は水泳をしながら卓球部に所属し、高校では陸上部に所属しておりました。このように私はずっと何かしらのスポーツに関わるものの、中途半端な所で辞めてしまっていたので、初めて本気に打ち込むほどに好きになれたボート競技にとっても感謝しています。今回この場で伝えたいことは、いきなり大きな結果は得られないということです(これはボートに限らずですが)。少しずつ成長していき、日本一になれる可能性が、未経験者の多い同志社大学ボート部の切磋琢磨しあえる環境にあると私は思っています。結局私は日本一になれませんでした。が、応援してくださっている方々に「ようやった」と言われるような結果を残すことはできました。これは大学ボート生活においての私の誇りです。大学ボート生活は終わりましたが、私の中では「まだまだやれる」という気持ちが大きいです。

私は大学生活で見出した可能性を信じて、社会人で仕事をしながらボート競技をする道を選びました。仕事と両立しなければならぬ限られた時間の中でより「質」を追求して目標に向かって努力して参ります。



山本 幸之介

KOUNOSUKE YAMAMOTO

商学部商学科
私立三田学園高等学校出身

時が経つのは本当に早く、私も引退を迎えました。振り返れば、私はこの大学ボート生活で、さまざまな経験を得、それが幾度となく自身を成長へと導いてくれました。

中でも、得た大切な経験の裏には常に苦い出来事があり、ここで私は、苦しいことや辛いことも、やがては自身の宝になり得るということを知りました。楽しい出来事や、勝利を掴み取る経験のみをすることが理想である反面、辛い体験や挫折をしてしまうことは必ずあります。しかしそれらの経験があるからこそ自己が磨かれ、仲間との絆が強まり、素晴らしい体験をした時の輝きが増すのだと分かり、そして遂に、本当の良い経験や成長は、自身の努力や、仲間と目標に向け必死に頑張っ

てゆく過程にこそあると学びました。これら経験と学びを経て、私の4年間は本当に意味のあるものになりました。そしてこのような発見や学びを与えてくれたのはこの同志社ボート部に他なりません。

この部を通して出逢えた監督指導陣その他大勢の方々、素晴らしい諸先輩方に後輩たち、そして同期が自身の大学4年間を本当にかけがえのないものにしてくれました。この御恩を決して忘れることなく、これからの人生の道を歩みます。本当にありがとうございました。



大慈 智哉

TOMOYA OHJI

商学部商学科
兵庫県立兵庫高等学校出身

OB・OGの皆さま、そして監督コーチ陣の皆さま、平素より大変お世話になっております。4回生の大慈智哉です。現役当時は会計を務めさせていただきました。会計を通して、艇友会会計の林様をはじめ監督や大学スポーツ支援課など多方面にてさまざまな方々に関わる機会がございました。お金の動きを辿るとともにさまざまな方の尽力に触れました。

引退し、未だに知らない尽力も数知れずあることでしょう。ただ、私のボート人生は幾重の苦難や葛藤に苛まれることもありましたが、本当にさまざまな人に支えられ、乗り越え闘うことができました。ごく普通の日常生活でさえも多くの方の支えありきでした。そんな人知れず支えてくださる皆さまのお陰で、私はまったくもって最高のボート人生を送らせていただくことができました。誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

次は、私が支える側になる番です。



芦田 一郎

ICHIRO ASHIDA

法学部法律学科
私立同志社高等学校出身

この4年間を振り返って、ボート部員として大学生活の4年間をやりきることができて良かったです。僕は初めの頃はエルゴなども全然速くなく、クルーも下位のクルーで負けてばかりで気持ちは落ち込んでいました。しかし1回生の加古川レガッタで1秒差で負けたことで意識が変わりました。そこから少しでもエルゴを速くしたいと思い毎日目標を持ってやっていると最終的に、1回生の頃は出せるはずないと思っていた6分40秒台を出すことができたり、試合でも徐々に戦えるようになってきました。ここで目標を作ってその気持ちを日々保ち続けることによって得られた結果だと思いました。しかしずっと目標にしていたインカレに出るとということは4年間叶いませんでした。最後にエルゴで良い結果が出て、インカレへ出ることができると考えましたが、叶いませんでした。これが叶わなかったときに、過去にこうしていれば良かった等いろいろな後悔が浮かんできました。最終的にOX盾の結果に後悔はしていませんが、これからは将来の自分が今の自分を省みたときに後悔のないように今を全力で無駄にしないように生きていきたいです。

4年間ありがとうございました。



藤岡 天翔

TENSHO FUJIOKA

商学部商学科
私立修道高等学校出身

総会では、誰でも勝てるって可能性を示したと言いました。だから皆、勝ってください。それは本心です。でも勝つことと同じくらい価値のあるものがあると思います。諦めないことです。

この4年間いろんなことがありました。怪我もしたし、予選敗退なんてザラだったし、ボートやってる意味ないとか思った時期もあったし、ダイニングでクソ滑ったこともあった。そんな4年間で僕は最後まで諦めないことの大切さを学びました。各々今どんな状況に置かれているかはわからん。けど、どんな形であれ、どうかやりきってほしい。なにも、諦めなければ絶対夢は叶うって、そんなジャムおじさんがするような話をするつもりはない。諦めなければ勝てるかどうかかわらん。けど、諦めずに本気で上を目指していく中で得たものは絶対に自分の一番大切なものになる。僕の場合それは、さまざまな場面で支えてくれた「仲間」と努力を通じた成長経験からくる「自信」です。誇張抜きで、僕史上最高の仲間に出会えて最高にアツい経験をするのができたのは、最後まで諦めなかったからだと思う。だから皆、諦めずに頑張っ

てほしい。ジャムおじさんはパン作りを諦めなかったからアンパンマンを生み出せたんです。



神宮 健輔

KENSUKE JINGU

経済学部経済学科
私立広尾学園高等学校出身

OB・OG、保護者の皆さまには多大なるご支援を賜りましたこと、感謝申し上げます。

ボート部の4年間でさまざまなものを作らせていただきました。Tシャツを作り、ローイングスーツを作り、チームスローガンを作り、拳句の果てには「渉外」という役職を作りました。渉外として、他大学との合同練習を始めました。特に戸田の大学との合同練習は悲願であり、今後も続けてほしいです。

今でも鮮明に覚えていることですが、私が1回生だった頃、私たち同志社ボート部にとって戸田勢は「得体の知れない強い人たち」でした。とにかく情報がなかったです。圧倒的な技量の違いは素人目にも明らかで、彼らとの距離も分からなかった。これからの3年間に絶望しながら、当時絶対王者だった日大エイトをスマホで録画していました。2回生の時に戸田のインカレナイトに1人で乗り込み、人脈を作り、多くの協力のもと合同練習の実現に至りました。今の部員にとって戸田勢は比較的身近な存在なのではないでしょうか。

個人としては正解のない世界で試行錯誤して一定の成果を得た初めての経験でした。また、このことが今後のインカレでの同志社旋風の一助となれば光栄です。今までありがとうございました。



中澤 正浩

MASAHIRO NAKAZAWA

経済学部経済学科
兵庫県私立甲南高等学校出身

いつの日か、自分の妻や我が子に私はこう語るでしょう。

「お父さんは大学で最高の部活に所属していた」

そう思えるのも、OB・OGの方々や監督、コーチの方々、お世話になった先輩方、愛おしい後輩たち、そしていつも隣にいてくれた同期たちのおかげです。

4年間ありがとうございました。



福井 彩夏

AYAKA FUKUI

スポーツ健康学部スポーツ健康学科
私立同志社女子高等学校出身

まず初めに、今までの競技生活を支援し、応援してくださっていたすべての方々に感謝の言葉を申し上げたいと思います。心身ともに支えてくださりありがとうございました。

先輩方の、本気で日本一になるという、当時はとても大きかった夢に導かれ漕手として入部し、2回生の冬にコックスに転向してがむしゃらに突っ走ってきたボート部人生でした。紆余曲折は多かったですが、たくさんの経験からの学びは多く、自分自身、大きく成長することができました。個性豊かな仲間たちに出会い、切磋琢磨する中で、何度も仲間たちのボートに対する熱い想いに感化される日々。もうそんな環境に身を置けないと思うと寂しく思います。私は輝ける成績を収めることはできませんでしたが、夢が現実となった日本一の舞台に何度も立ち会えたことは誇りにさせていただきたいと思います。

種目は違えど、自然を相手にする競技を続けて10年、この貴重な環境で学び大切にしてきた「当たり前の反対は有り難い」ということです。この組織に所属し強く実感しました。ここで学んだことを活かし、自分に甘んじず、これからの人生を歩んでいきます。

最後になりましたが、同志社大学ボート部のさらなる発展を切に願っております。



村上 真哉

SHINYA MURAKAMI

商学部商学科
大阪府立四条畷高等学校出身

私がボート部に入部した目的、それは自己の内面を変えていくことです。1回生の時、新歓で先輩方の人間性に惹かれ、「こんな大人になりたい」と強く感じました。当時は他にやりたいこともあり一度は入部を断念しましたが、1回生の1年間を過ごす中でもボート部の先輩方に対する憧れは消えず、2回生の4月に入部する決断をしました。入部当初は、上下関係が身についておらず注意されたり、失敗を繰り返して周りに何度も迷惑をかけたものです。しかし周囲の支えがあったからこそ、そんな時期を乗り越えることができました。こんなにも頼りなく不器用な自分を見捨てずに、粘り強く接してくださった先輩方・同期・後輩・コーチの方々に心から感謝しています。入部当時と比べると、人として大きく成長できたと実感しております。ボート部で学んだことは数えきれないほどあります。

最後に現役の皆には、周囲からの支えを忘れないでいてほしいです。例えば漕手が日々モーションに打ち込める環境が、どれだけの支えがあって成り立っているのかということや、少しでもいいから意識してほしい。部員全員が充実したボート生活を送れることを願っています。

本当にお世話になりました。



田川 凌大

RYOTA TAGAWA

政策学部政策学科
神戸市立六甲アイランド高等学校出身

監督、コーチ、OB・OGの方々の皆さん、3年半ご指導・ご支援いただきありがとうございました。現在では入部当初では考えられない100人を超える部員をはじめ、強くなっていく過程などさまざまなことを経験させていただいた同志社大学ボート部に携わることができて、嬉しく思います。

私は入部当初から「国体選手になる」、「真の対校8+に乗る」、「インカレ8+で日本一」「強い同志社へ」という4つの大きな目標を持って、練習に取り組んできました。

しかし、下級生のころは勝つことができなくて、目標を見失うことも多々ありました。

そんな時、いつも頭をよぎるのは愛媛県にある済美高校の校歌の中にある『やれば出来るは魔法の合言葉』という言葉でした。未経験集団がセレクション集団に立ち向かうことは、非常に大きな壁でした。しかし、どんな高い壁があっても、臆することなく「やればできる」と思い、挑み続けることができました。「インカレ8+で日本一」という目標は達成することはできなかったで、後輩に託します。これからはOBとして応援していきます。

最後にこれまで支えてくれた家族に感謝したいです。本当にありがとうございました。



生駒 宏武

HIROMU IKOMA

グローバルコミュニケーション学部
グローバルコミュニケーション学科
私立三田学園高等学校出身

「ボート部に入部してよかった!」とこの原稿を書いている現時点で、自分は断言することはできない。1回生の春、希望に満ちてボート部への入部を決意したが、引退するまで厳しい現実にも何度も悩まされた。特に、ラストシーズンは朝日レガッタに病気で出場できなくなり、自分のクルーが手に汗を握るような熱いレースを繰り広げている動画を病院のベッドで視聴することしかできず、最後のレースも藻が原因で不完全燃焼に終わってしまい、結局自分のボート部人生とはなんだったのであろうかと、レース後何度も自分に問いかけた。しかし、数多くの苦しい経験をしたからこそ、合宿所での腹を抱えて笑った会話、レースで勝った時の興奮、艇が走った時の爽快感、ベストを出した時の喜び、その他楽しかったこと、嬉しかったことが今、まざまざと色鮮やかに蘇ってくる。

あれほど、毎日が厳しい練習の日々であると同時に、刺激的で色濃い日々は二度とやっては来ないだろう。そして、これから長い社会人生活、辛いことがたくさん待ち構えているに違いない。その時、ボート部での経験が必ず活きて、自分を前へ押してくれるという未来への期待を記しここで筆をおきたいと思う。



竹本 咲良

SAKURA TAKEMOTO

文学部文化史学科
福岡県立城南高等学校出身

私は4回生でサポートに転向した時、この部にはたくさんの人によって支えられていることに気づいた。よく聞く言葉だが、このひと言では表せないほど、多くの人が漕手の見えないうちで活動していた。それまではどうすれば上手くなるのか、自分本位でしか考えていなかった。大人数だから誰かが部を回してくれる、自分には関係ないと思っていた。

しかし、サポートになりその「誰かが」の部分を少しでもやってみると、部に携わる多くの人が見えてきた。何不自由なく競技に専念できるのは、MG、トレーナー、艇管理、OBの方々などさまざまな人の支えたいという想いがあるから。また、強くなり勝ってほしいと願うコーチや監督の指導があるからだ。こんなにも多くの人に支えられた部に所属しているのだと気づいてからは、引退までこの部に何ができるかを考えるようになった。サポートになり、部に対する見え方が変わった。漕手をしていただけないで気づけなかったことがたくさんあった。部内にはさまざまな役職の人がいるが、他人に興味を持てば、当たり前前にできる一つひとつのことに感謝できるようになった。これからも広い視野を持ち、感謝の気持ちを言葉にできる人になっていきたい。



宇佐見 侑紀

YUUKI USAMI

文学部国文学科
大阪府立富田林高等学校出身

ボート部の雰囲気魅了され、直感で入部を決めたあの日から、早くも3年半が経ち、無事引退を迎えることができました。ボートはうまくいくことばかりではなく、苦しんだことも多々ありましたが、家族のような大好きな部員たちと寝食を共にし、切磋琢磨することで、充実した現役生活を送ることができました。

6人で始まった女子部も20人を超え、仲間として、時にはライバルとして、お互いに高めあえる環境が整いました。後輩たちのおかげで私はクルーボートに乗ることができ、頑張り抜くことができ、最後の最後に最終日の夢が叶いました。初めて本格的にスリープ種目に挑戦し、全艇種乗ることができたのも女子部が大きくなったおかげです。この1年は間違いなく女子部の「過渡期」でした。強く新しく変化してきたこの女子部の一員であったこと、心から誇りに思います。これからはOGとして、さらに強い女子部を、さらに強い同志社を期待し、後輩たちを応援したいと思います。

最後になりましたが、直感を信じてボート部を選んで本当に良かったです。私に関わって下さったすべての皆さま、本当にありがとうございました。



藤本 亮

RYO FUJIMOTO

政策学部政策学科
大阪府立桜塚高等学校出身

はじめに、監督・コーチの皆さま、OB・OGの方々そしてお世話のなりました先輩方に感謝の意を申し上げさせていただきます。4年間たくさんのご支援・ご声援、ご指導を頂きありがとうございました。

私はCOXのポジションを4年間全うしてきましたが、そのスキル・適正に関しては非常に欠陥が多く、ともにボートに乗せていただいた先輩方には練習・試合時に皆様にご迷惑をおかけしてことばかり知れません。しかし先輩方のご指導や同期の支えを通して士気を高めることで少しずつチームの勝利に貢献できるようになったのではないかと思います。

ボートは他のスポーツと比べても努力や経験が非常に大きな意味合いを持ち、レースでそれが嘘偽りなく結果にあらわれます。試合で勝てないときの悔しさは甚だしいものでしたが、ゴールラインを1位で抜けたときの喜びは大きく、特に戸田での景色は別物でありました。

どれだけ自分の実力に悩んでも、挫折しても、部員同士の高めあいやサポートを通して一心不乱に努力を重ねた後に見られる試合での勝ちの瞬間を目指して、日々の練習に励んでほしいと思います。そしてその過程に非常に価値があったことを感じられることと思います。



山口 弘人

HIROTO YAMAGUCHI

商学部商学科
福井県立藤島高等学校出身

はじめに、今まで同志社大学ボート部にご支援いただいたOB・OGその他関係者の方々、本当にありがとうございました。皆さまの想いに応えるのが僕たち現役の使命です。そういう意味では自分が在籍した4年間は少しばかり、その想いに応えることはできたのではないかと思います。また、その結果を実現するためにご指導していただいた監督・コーチの方々に感謝申し上げます。特に4年間一貫して見てくださった監督・岩井コーチ・堀田コーチのお三方にはさまざまな知識はもちろんのこと、選手と関わる姿勢や、時には社会人基礎力なども教えていただきました。僕は就活の時に一貫して企業の人に伝えていたことがあります。それは、とても恵まれた時期にDJRCに関わることができたということです。コーチの方々はもちろんですが基礎を作ってくれた2、3個上の先輩がいて、共に戦績を出した1個上の先輩と同期がいて、最後の年にまがりなりにも僕たち4回生についてきてくれた後輩がいてこそです。数は力。勧誘を強化して僕たちは強くなりました。ただ、もうその段階ではありません。数は力。単なる数ではなく、ボートに真剣に向き合っていた人の数こそ力です。そうすればDJRCはどの大学にも真似できないほど強くなるでしょう。



大田 彩葉

SAYO OHTA

経済学部経済学科
私立同志社女子高等学校出身

私は1回生の時、この人たちの役に立ちたいと、のめり込むように入部を決心しました。しかし、入部してからは目の前で、精一杯で、正直、誰かのことを考える余裕がありませんでした。その結果、部の勝利をどこか他人事のように思えてしまうことが続き、自分の不甲斐なさに悩んだ時期もありました。

でも、今にも倒れそうになりながらも必死に練習する選手や、各々が抱え持つ不安や葛藤の中でも部を強くさせることを一番に考える周りのサポーターの姿を見ている度に、自分の悩みがちっぽけに思えて、生半可な気持ちでやっている場合じゃないと強く感じさせられました。部の一員であり、誰かを支える立場である以上、選手との距離をもっと近くし、誰よりも部員一人ひとりと向き合いたいと、部員とのコミュニケーションの時間を特に大事するようになりました。そう自然と思わせてくれる先輩方や同期、後輩たちが私は大好きですし、今もこれからも尊敬しています。

最後になりましたが、同志社大学ボート部に関わってくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。ボート部を通じて過ごした時間や多くの方々との出会いは私の誇りです。本当にありがとうございました。



福島 沙帆

SAHO FUKUSHIMA

社会学部教育文化学科
京都市立西京高等学校出身

たくさんの偶然が重なって入部を決めたボート部が、私の大学生活のすべてでした。スポーツにおいて初めてプレーヤーを離れ、サポートする立場になって、自分に何ができるのか、自分は何のためにいるのかもわからないまま、ただ必死になってできることを探して、考えて動くことは、簡単なことではありませんでした。それでも、それすらも楽しいと実感できたのは、夢みtainな目標を本気で目指す漕手の姿があったからでした。そんな漕手の姿を傍で応援するうちに、私も本気で熱くなれました。最後の1年はマネージャーの中でも統制として働くようになり、迷い続け悩み続けたラストイヤーでした。何回も逃げたくなかったけれど、統制としてだけではなく、1人のマネージャーとして、ずっと固く譲れない信念がありました。こんな統制に最後までついてきてくれた後輩たちと、支えてくれた同期には、言葉だけでは伝えきれないほど感謝しています。

最後になりましたが、OB・OGの皆さま、保護者の方々を始め、ボート部を支えてくださったすべての皆さま、本当にありがとうございました。今後、もっともっと大きくなっていくであろう同志社大学ボート部の活躍に期待しています。



八木 鞠菜

MARINA YAGI

政策学部政策学科
私立賢明女子学院高等学校出身

まずはじめに、武田監督、コーチの方々、新井会長をはじめ幹事の皆さま、4年間大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

「必ず日本の景色を見せるから、ついてきてほしい」そう語る先輩のキラキラした姿に魅了され、入部を決意しました。中学、高校と主体で動いてきた自分にとって、マネージャーの仕事は今まで経験したことのないことばかりで、ギャップを感じたのを覚えています。雨の日も雪の日も自転車の荷台に山積みの食材をのせた自転車、慣れるまでびくびくしていた電話かけ。朝から晩までひたすら料理、買い出し、ビデオ撮りを繰り返した遠征。きっともう一生分を握りきったであろうおにぎりの数。

果たして自分はチームに貢献できているのか、と悩むこともありましたが、そんなときいつも私を熱くさせてくれたのは、部員の姿でした。みんなの勝利に対する熱い想いすべてが私の原動力でした。周りの人に支えてもらった4年間だったと感じています。最後のインカレで日本一の景色を見ることができて本当に幸せでした。

ボート部での4年間の経験と、得た仲間は宝物です。本当にありがとうございました。



光田 真美子

MAMIKO MITSUDA

政策学部政策学科
愛知県立津島高等学校出身

「何故負けたあとに笑顔でいられるのか」「何故自分の仕事に文句ばかり言うのか」「何故全員が同じ方向を向いて頑張れないのか」。振り返れば、私がボート部で過ごした日々は、何故の繰り返しだった。自分と違う行動や発言をする人を否定し、分かりあえないと拒み、1人で頑張ろうとしていた。「こんな雰囲気では強い同志社は創れない」、そう思っていた、ある時まで。

ボート部での日々を過ごしていく過程では、さまざまな困難や壁に直面せざるを得ず、分かりあえず怒ったことも、泣いたことも多かった。しかし、そこで私はやっと気づくことができた。誰も頑張っていないわけじゃない。表現の仕方が違うだけで誰しもが想いを持っている、と。

私が過ごしたボート部での4年間をひと言で表すとしたら、「知」だと思う。ボートという競技を知り、悔しさ、苦しさ、嬉しさというさまざまな感情を知り、自分を、そして人を知った。ボート部で過ごした日々は正直「楽しかった」と簡単に言えるものではない。けれど、私にとって、何にも代え難い、かけがえない4年間であったことに間違いはなかった。

後輩たちには、大切なこの部活をどうか守っていき、知ることを忘れずにいてほしいと思う。



日花 奈々子

NANAKO HIBANA

社会学部メディア学科
京都市立西京高等学校出身

今まで支えてくださったOB・OGの皆さま、監督・コーチ、先輩方、同期、後輩、4年間本当にお世話になりました。新勅で熱い先輩方の想いに惹かれ入部してからあっという間の4年でした。

1回生の時は仕事を覚えるのに必死で、ボートが好きだったかと言われると、正直わかりません。当時、私は漕手と仲良くなりたいと思っていても、あまり話すことができませんでした。その状況を変えたくて、2回生からボートのことを知ればもっと漕手のことを知れると思い、先輩方や同期にボートについてたくさん教えてもらいました。そうしているうちに選手とも話せるようになり、普段のビデオ撮から試合まで、1回生の時の何倍も楽しむことができていました。「仕事」としてこなしてきたことが、「漕手が勝つため」と思えるだけでこんなに違うのか、と身をもって感じました。

今ボートが好きか聞かれると、大好きです。引退した今思うのは、しんどかったことも含め続けてきたボート部での4年間は、一生の誇りになるということです。今自分がやっていることに自信を持って残りのボート部生活を楽しんでください。4年間、本当にありがとうございました。



毛利 宣子

NORIKO MOURI

政策学部政策学科
私立筑紫女学園高等学校出身

「こんな熱い人たちと一緒にいたい」。運動部に縁もゆかりもなかった私が入部を決めた理由でした。そんな想いからはや4年、思い返してみれば、実りの多い素晴らしい時間を過ごせたように思います。

今までなにかに熱中したことがない私にとって、勝利に向かってひたすらに頑張る選手の姿や、仲間という温かい存在、人や組織を支えることの難しさ、ボート部での経験すべてが新鮮で何にも代え難いものでした。マネージャーとしてどうありたいのか、私ができることは何なのか、考えることや悩むことも多くありましたが、先輩方や同期に支えてもらったことで、高いモチベーションを維持し、4年間やりきることができたように思います。特に、同期マネージャーは相談に乗ってもらったり、お互いの意識を高めあったりできるかけがえない存在でした。また、監督・コーチ陣、OB・OGの方々、学連で出会った仲間、ボート協会の方々など、部内のみならず多くの方々とのご縁にも恵まれました。ボートを通じて、出会い、支えてくださったすべての方々に御礼申し上げます。

これからは、OGとして後輩の活躍に期待し、見守っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



しろうず あき ひろ
白水 亮兆【COX】

- ① 商学部商学科
- ② 福岡県立筑紫丘高等学校
- ③ 178cm/58kg
- ④ 死力を尽くします



とくなが たく と
徳永 拓人【COX】

- ① 理工学部
機能分子・生命科学科
- ② 大阪府立四條畷高等学校
- ③ 164cm
- ④ 気合い入れて
ラスト飾ります



ゆ ら ょう すけ
涌羅 陽介

- ① 商学部商学科
- ② 兵庫県立星陵高等学校
- ③ 177cm/73kg
- ④ 一切の妥協なき
シーズンへ



おち あい も も か
落合 萌々花

- ① 法学部法律学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 161cm
- ④ ラストチャンス



やま もと もも か
山本 百華【女子主将】

- ① 文学部英文学科
- ② 山口県立下関西高等学校
- ③ 167cm
- ④ ラストシーズン勝ちきる



ふくしま だい ち
**福島 大智
【シニアマネージャー】**

- ① 経済学部経済学科
- ② 滋賀県立石山高等学校
- ④ 存在価値を高める



なが とみ ち ひろ
永富 千尋

- ① 経済学部経済学科
- ② 福岡県立東筑高等学校
- ③ 172cm
- ④ 学生生活の集大成を
飾る！



たに み お
谷 美緒

- ① 商学部商学科
- ② 私立同志社高等学校
- ③ 159cm
- ④ 4年間のラストサポート



たけ やす れい か
武安 玲佳

- ① 政策学部政策学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 156cm
- ④ 過去の自分への証明



き むら あか り
木村 朱里【学連】

- ① 商学部商学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ④ 自分にできることを
すべてやりきる



おお がき せい な
大垣 誠奈【栄養衛生】

- ① 政策学部政策学科
- ② 西宮市立西宮東高等学校
- ④ 悔いのないラスト
シーズンになるように
1つひとつ丁寧に頑張ります！



い と い がわ
**糸魚川 みどり
【主務・トレーナー】**

- ① 経済学部経済学科
- ② 北海道札幌旭丘高等学校
- ④ すべての行動に責任を
持ち、常に最善を尽くす



こ に し れい こ
小西 礼子【艇友会】

- ① 法学部法律学科
- ② 私立愛知淑徳高等学校
- ④ ラストシーズン
頑張ります！



く ぼ た り り こ
**久保田 理々子
【広報】**

- ① 神学部神学科
- ② 埼玉県立
熊谷女子高等学校
- ④ ひとつひとつ丁寧に

2020年度

現役部員紹介

①学部・学科 ②出身高校 ③身長/体重 ④来シーズンに向けてひと言



新4回生



たに りょうと
谷 峻登【副将】

- ① 法学部政治学科
- ② 福岡県立東筑高等学校
- ③ 183cm/75kg
- ④ Don't Stop Believin'!



やま だ わしょう
山田 倭正【主将】

- ① 法学部法律学科
- ② 私立白陵高校
- ③ 185cm/83.5kg
- ④ VERTEX 戸田に同志社
旋風を巻き起こす！



くわ た ひろ き
桑田 大輝

- ① グローバル地域文化学科
アメリカコース
- ② 兵庫県立姫路東高等学校
- ③ 185cm/78kg
- ④ ラストシーズンなので
インカレで優勝を目標に
今まで以上に死ぬ気で
やる



か ぎ こうへい
加木 康平

- ① 社会学部教育文化学科
- ② 大阪府夕陽丘高等学校
- ③ 172cm/73kg
- ④ ラストシーズン全力で
駆け抜けます！



やま もと りょうた
山本 涼太【副将】

- ① 商学部商学科
- ② 私立同志社高等学校
- ③ 176cm/72kg
- ④ 今までやってきたことを
無駄にしないためにも、
勝って終わる



と つか しんと
戸塚 駿斗

- ① 商学部商学科
- ② 群馬県立
共愛学園高等学校
- ③ 181cm/73kg
- ④ 自分らしく頑張る



たけうち つとむ
竹内 努

- ① スポーツ健康科学部
スポーツ健康学科
- ② 私立松本第一高等学校
- ③ 187cm/80kg
- ④ 誰にも負けない



たか もと しょうの すけ
高本 正之甫

- ① 法学部法律学科
- ② 私立高槻高等学校
- ③ 177cm/77kg
- ④ すべてを懸ける



はしもと けん た ろう
橋本 健太郎

- ① 法学部政治学科
- ② 奈良県立奈良高等学校
- ③ 177cm/68kg
- ④ 成長し続ける



なか の こう じ
中野 昂士

- ① 商学部商学科
- ② 山口県立宇部高等学校
- ③ 180cm/80kg
- ④ 勝つために努力します



とみしま だい ち
富嶋 太地

- ① 法学部法律学科
- ② 奈良県立生駒高等学校
- ③ 165cm/67kg
- ④ 自分をより高いところへ
連れていく



もとみや しゅうご
本宮 秀梧

- ① 法学部法律学科
- ② 多摩大学付属
聖ヶ丘高等学校
- ③ 173cm/70kg
- ④ 耐え忍ぶ



み き たか ひろ
三木 貴博

- ① 経済学部経済学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 183cm/79kg
- ④ 学生最後のシーズンを
貫き通す



は せ べ まさ や
長谷部 正也

- ① 法学部法律学科
- ② 岐阜県立長良高等学校
- ③ 172cm/79kg
- ④ 笑顔いっぱい

新3回生

おくばやし すずな
奥林 涼菜

- ① 理工学部化学システム創成工学科
- ② 群馬県立太田女子高等学校
- ③ 162cm
- ④ 自分の力で昨シーズンを超える

いしかわ ゆきの
石川 裕希乃

- ① スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
- ② 大阪府立箕面高等学校
- ③ 157cm
- ④ 魅せる

いしがき あい
石垣 愛衣

- ① 商学部商学科
- ② 秋田県立本庄高等学校
- ③ 156cm
- ④ メダル取ります!!

いもと ふとし
井本 太

- ① 文学部美学芸術学科
- ② 福岡県立筑紫丘高等学校
- ③ 170cm/66kg
- ④ 成長し花開く

あんどう あきひろ
安藤 亮裕

- ① 政策学部政策学科
- ② 私立同志社香里高等学校
- ③ 170cm/69kg
- ④ 大舞台で活躍する

みしな まりこ
三品 真里子

- ① スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
- ② 大阪府立春日丘高等学校
- ③ 161cm
- ④ 勝ちを知るシーズンにする

まつもと はるか
松元 遥香

- ① スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
- ② 私立鹿児島高等学校
- ③ 159cm
- ④ 毎日を全力で頑張ります

たに もと はるか
谷本 陽花

- ① 政策学部政策学科
- ② 三重県立津高等学校
- ③ 169cm
- ④ 勝つ選手になります

おきなか ともや
沖中 朋也

- ① 商学部商学科
- ② 東海大学付属仰星高等学校
- ③ 171cm/68kg
- ④ 飛躍の1年にする

おおが たくと
大賀 拓人

- ① 理工学部電気工学科
- ② 私立同志社香里高等学校
- ③ 174cm/73kg
- ④ 勝利に貢献できるように頑張ります。

いちかわ たくま
市川 巧真

- ① 社会学部社会学科
- ② 愛知県立千種高等学校
- ③ 168cm/74kg
- ④ 来年こそ勝ちます

ほそかわ みずき
細川 瑞姫
【トレーナー】

- ① 政策学部政策学科
- ② 大阪府立清水谷高等学校
- ④ 熱意と責任感を持って部に関わる

ほそかわ なお
細川 奈央 [COX]

- ① 政策学部政策学科
- ② 関西大倉高等学校
- ③ 152cm
- ④ 日々成長する!

やまもと さな
山本 紗奈

- ① 社会学部メディア学科
- ② 私立同志社女子高等学校
- ③ 156cm
- ④ 結実。飛躍の1年にする

こじま ゆうた
小島 佑太

- ① 商学部商学科
- ② 私立熊本学園大学付属高等学校
- ③ 181cm/75kg
- ④ エイトで勝ちます

くろす しゅうた
黒須 脩太

- ① 経済学部経済学科
- ② 栃木県立真岡高等学校
- ③ 177cm/76kg
- ④ 己のすべてを賭して、再び歴史に名を刻みます

かいどう ゆうま
階堂 裕真

- ① スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
- ② 私立同志社香里高等学校
- ③ 167cm/68kg
- ④ This is Power

はるた
春田 ひかる [広報]

- ① 法学部政治学科
- ② 兵庫県立星陵高等学校
- ④ 部の勝利に繋がる行動、サポートをします

さとう はるな
佐藤 遼奈
【体育会本部】

- ① 商学部商学科
- ② 宮城県仙台南高等学校
- ④ 部の勝利のため、全力を尽くします!

やまさき ゆうり
山崎 優有
【トレーナー】

- ① スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
- ② 私立中京大学付属中京高等学校
- ④ 部員一丸となって、さらに強い同志社をつくりあげていく

たきもと おうた
滝本 旺大

- ① 法学部法律学科
- ② 私立教池袋高等学校
- ③ 168cm/74kg
- ④ 戸田勢を倒す

たかぎ えいじ
高木 栄次

- ① 法学部法律学科
- ② 香川県立高松西高等学校
- ③ 178cm/85kg
- ④ 猪突猛進

こもり けい
小森 京

- ① 法学部政治学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 171cm/67kg
- ④ 自分に勝つ

やすおか きょうか
安岡 京香
【統制・栄養衛生】

- ① 商学部商学科
- ② 国立京都教育大学付属高等学校
- ④ 多方面からサポートに励みます

なかもり さわこ
中森 佐和子 [艇友会]

- ① 社会学部社会福祉学科
- ② 鳥取県立鳥取西高等学校
- ④ 漕手の力になれるよう尽力します

ふじもと みく
藤本 美玖 [広報]

- ① 法学部政治学科
- ② 兵庫県立御影高等学校
- ④ マネージャーとして自分のすべきことを考え、部に貢献できるよう尽力します

にし で はやと
西出 捷人

- ① 理工学部インジェント情報工学科
- ② 私立同志社高等学校
- ③ 167cm/74kg
- ④ スカルチームの核になる

とくまえ りんたろう
徳前 麟太郎

- ① 法学部法律学科
- ② 石川県立金沢二水高等学校
- ③ 177cm/68kg
- ④ どんな時も諦めません!

たけやま りょうた
竹山 亮太

- ① グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科アメリカコース
- ② 大阪市立咲くやこの花高等学校
- ③ 178cm/76kg
- ④ 発揮

ほり けいぞう
堀 啓造

- ① 経済学部経済学科
- ② 岡山県浅口私立金光学園高等学校
- ③ 174cm/77kg
- ④ 全日本級入賞

ばん こうへい
伴 航平

- ① 理工学部システムデザイン学科
- ② 大阪府立千里高等学校
- ③ 171cm/75kg
- ④ とりあえず入賞する

にしむら まさちか
西村 雅親

- ① 社会学部メディア学科
- ② 滋賀県立膳所高等学校
- ③ 177cm/77kg
- ④ 圧倒的パワー、理想的テクニック

新2回生

おか べ てっ さい
岡部 哲斉

- ① 商学部商学科
- ② 私立熊本学園大学
附属高等学校
- ③ 162cm/55kg
- ④ 一生懸命頑張ります

み さわ こう た ろ う
三沢 康太郎

- ① 法学部法律学科
- ② 私立
佐野日本大学高等学校
- ③ 176cm/71kg
- ④ 目標とする人と
同じ船に乗る

まつ かわ かず き
松川 知生

- ① 経済学部経済学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 173cm/71kg
- ④ 常に全力を出し切る

えん どう ひろ まさ
遠藤 寛昌

- ① スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
- ② 広島県立
広島観音高等学校
- ③ 158cm/66kg
- ④ 戸田で漕ぐ

いそもと はや た
磯本 迅汰

- ① 社会学部産業関係学科
- ② 奈良県立平城高等学校
- ③ 183cm/85kg
- ④ 結果にこだわる

たに もと み い な
谷本 美伊菜

- ① スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
- ② 私立同志社高等学校
- ③ 159cm
- ④ 日々全力で取り組み、
楽しんで、成長します！

しか ま じゅ の
鹿間 珠乃

- ① 文学部英文学科
- ② 愛知県立
名古屋西高等学校
- ③ 167cm
- ④ まだまだ伸びて、
たくさん勝ちます

やまもと あゆ む
山本 歩武

- ① 法学部法律学科
- ② 福岡県立育徳館高等学校
- ③ 163cm/58kg
- ④ 結果惊呆了

おか もと のぼる
岡本 登

- ① 法学部法律学科
- ② 徳島県立海部高等学校
- ③ 174cm/75kg
- ④ 全大会でメダルを獲る

おお はし ぎん じ
大橋 吟次

- ① 理工学部電子工学科
- ② 滋賀県立彦根東高等学校
- ③ 167cm/64kg
- ④ 強くなる

おお え あきのり
大江 彰紀

- ① スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
- ② 宮城県立
仙台第一高等学校
- ③ 162cm/61kg
- ④ 自分の限界に挑む

おお さき
大崎 なでしこ
【トレーナー】

- ① 政策学部政策学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ④ 常に向き合う

うち やま みどり
内山 碧【COX】

- ① スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
- ② 静岡県立浜松北高等学校
- ④ 何事も妥協せずに
頑張ります

やまかわ けい か
山川 慶衣果

- ① 政策学部政策学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 158cm
- ④ 成長を感じる
シーズンにする

かた やま なつ き
片山 夏貴

- ① 政策学部政策学科
- ② 私立追手門学院高等学校
- ③ 173cm/73kg
- ④ 自分に勝つ!!

かき やま ひろ き
柿山 弘樹

- ① 法学部法律学科
- ② 大阪府立住吉高等学校
- ③ 176cm/76kg
- ④ 諦めない

おち あい こう だい
落合 航大

- ① 法学部法律学科
- ② 私立同志社国際高等学校
- ③ 181cm/73kg
- ④ 全力で楽しむ

いしだ ひな こ
石田 比奈子
【マネージャー】

- ① 経済学部経済学科
- ② 私立福岡女学院高等学校
- ④ 全力でサポートします

より た ふう か
寄田 風花
【トレーナー】

- ① 法学部法律学科
- ② 私立同志社女子高等学校
- ④ 毎日成長し続けます

た ばた あや な
田畑 綾奈
【トレーナー】

- ① 商学部商学科
- ② 私立同志社高等学校
- ④ サポートも強くなります

こう だ なる と
神田 成仁

- ① 経済学部経済学科
- ② 山口県立徳山高等学校
- ③ 172cm/70kg
- ④ 結果にこだわる

かみ はた ゆう た ろ う
上畠 勇太郎

- ① 文学部国文学科
- ② 私立鹿児島高等学校
- ③ 172cm/67kg
- ④ 心も体もでっかく！

かみがき ただ まさ
神垣 忠政

- ① 経済学部経済学科
- ② 私立桃山学院高等学校
- ③ 183cm/82kg
- ④ 勝つシーズンにする

み たに あや の
三谷 彩乃
【マネージャー】

- ① 政策学部政策学科
- ② 香川県立高松西高等学校
- ④ 自分にできることを考え、
一生懸命頑張ります

の むら か な
野村 香奈
【マネージャー】

- ① 経済学部経済学科
- ② 私立興南高等学校
- ④ サポートとして
漕手のために
できる限りのことをする

たか ぎ あゆ ま
高木 歩真

- ① 神学部神学科
- ② 私立岡崎城西高等学校
- ③ 172cm/60kg
- ④ 強くなる!!

こ もり かず き
小森 一毅

- ① 経済学部経済学科
- ② 私立同志社高等学校
- ③ 178cm/78kg
- ④ インカレに出る

こ にし たつ や
小西 辰弥

- ① 法学部法律学科
- ② 私立報徳学園高等学校
- ③ 168cm/70kg
- ④ 飛躍の年にする

ふじ き たか や
藤木 貴也

- ① スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
- ② 和歌山県立桐蔭高等学校
- ③ 172cm/68kg
- ④ さらに強くなれるよう
努力します

まつ なが
永松 サムエル

- ① 経済学部経済学科
- ② 私立暁星高等学校
- ③ 181cm/79kg
- ④ 強靱な肉体と精神の構築

つね ふじ あき と
常藤 壮人

- ① 社会学部社会学科
- ② 私立清教学園高等学校
- ③ 175cm/70kg
- ④ 自分を信じられるまで
努力し、結果を出す



コーチングスタッフ紹介



女子コーチ

中來田 悠介

2019年6月から女子部のコーチを担当しております、平成29年卒の中來田です。

近年、同志社ボート部は部員数の増加とともに戦力的にも成長を続けています。部員数増加による成長が小さくならうとしている中、さらなる成長の手助けができればと思い、コーチになることを決意しました。

今年の女子のインカレ成績としましては、ダブル6位、クォード8位という結果でした。女子の種目で入賞することができたのは喜ばしいことですが、やはりメダルを取らせてあげたかったです。

来年のインカレでは大きく踏み出し優勝を目標にしています。私としても初めて1年間コーチをすることになるので、しっかりとインカレまでの道のりを考え取り組んでいきます。



コーチ(新人指導)

杉藤 洋志

2019年の同志社大クルーに、自分はどれだけ貢献できたでしょうか。海外一流クルーとの接点の橋渡しとなること、またこれまでの同志社大の新人教育に一石を投じたこと、これらは同志社大ボート部に「刺激」を与えることはできた「成果」といえると考えます。しかしながらその刺激をもたらしたにとどまり、率直に言って自分の仕事に不満が残ったシーズンでした。組織慣性を言い訳にするのは、自分のような外部の血を注入することを期待されてチームの一員に名を連ねる者として自己否定を意味します。

2020年、より好ましい変化を生み出すための刺激をもたらす存在として、チームへ貢献する所存です。



リガー

大越 将洋

本年も1年間、専属リガーとしてリギング全般のフォローをさせていただきました。今期は朝日や関選をはじめ、インカレなどの主要大会のレース前には、私自身が使用する艇のすべてのシートのリギングを施しましたので、万全な整備状態でレースに挑めていたと思います。それが主因だとは決して申しませんが、去年を上回る成績を残す上でお手伝いできたのでは？と個人的には胸をなで下ろすと同時に、さらなる高みを目指すため、ますます身の引き締まる思いです。

リギングはすべてのストロークに関わる重要なファクターです。来年は普段からしっかりとした整備状態で、日々質の高いストロークを積み重ねられるよう、サポートしていきますのでよろしくお願ひいたします。



コーチ

山岡 彩加

「いかにして痛みと付き合うか」。2019年度より同志社大学ボート部サポートチームの一員として活動させていただく中で、この考え方を選手一人ひとりにお持ちいただくことの大切さを実感しています。

アスリートは痛みと付き合いながらパフォーマンスを磨きます。また、怪我によりすぐに競技継続を諦める必要もありません。重要なのは診断名ではなく、冒頭の通り「痛みと付き合う(致命傷にさせない)」コンディショニングを身につけることです。

怪我を乗り越えアスリートに成長していく選手を見るたびに、このチームはもっともっと強くなると確信しています。2020年度もさらなる高見を目指し力漕いたしますので、温かい応援をよろしくお願いいたします。



学生コーチ

山口 弘人

2020シーズン、競技戦略コーチという立場をいただきました山口弘人と申します。現在は学生コーチとして指導しています。来年からは埼玉の温浴ベンチャー企業で働きますが、コーチとしての関わりを継続したいと思っています。2020シーズンもよろしくお願いいたします。

さて、競技戦略ということで来年の戦略についてです。すべては『VERTEX』に帰結します。もちろん、今年は頂点を目指すために、旋風を起こせるように強化していきます。対校が対校たるように、男女共にTOPクルーで組みます。そしてボート競技の特性を考え、選手が自分たちで部を強くする方針を打ち出し、自主性を尊重する土壌を作っています。競技面も然り、組織面も然りです。詳しくは書ききれないのでお会いした際にたっぷり話しましょう！



監督

武田 知也

2019年シーズンは前年の好成績からくる重圧を跳ね除けるための格闘の1年でした。エイトでの勝利は叶わなかったものの、難産の中生み出した全日本の2×の準優勝、インカレ4+優勝、関西選手権W4+優勝、その他多くの入賞は価値あるものでした。長年の試行錯誤を経てついにインカレで総合の五指に入るようになりました。残るライバルは仙台、中央、明治、日大です。未経験者主体のチームの星として誇りと覚悟をもって、一気に頂点へ突き進んでいきたいと思っています。

過去を検証し、未来を見据え、やるべきことを大胆にやる組織として、指導者陣が各役割をしっかりと果たし、同志社スポーツとボート界の未来を切り拓く存在として進んでまいります。



コーチ

原 一雅

同志社艇友会員の皆さま、保護者の皆さまには日頃よりボート部に対しましてご協力・ご支援いただきありがとうございます。

2019年は、朝日レガッタから関西選手権・インカレまで大健闘の戦績を残し、クルーボートでも勝てる可能性を感じることができたシーズンとなりました。

今年は、競技面だけでなく生活の部分に至るまで今までよりもさらに学生たちが自主的・自発的に部を運営し、自分たちで考え、悩み、模索しながら、勝利をつかみ取りにいかうと奮闘しています。

その姿を見ていると、2020年シーズンは変革と飛躍の年になるはずであると信じて、期待をこめてサポートしていきます。



コーチ

小原 隆史

艇友会員、保護者の皆さま、いつもご支援ご協力をいただき、ありがとうございます。

直近の3シーズン、さまざまな種目で、優勝2回、多数のメダル獲得と入賞を果たし、もはや他大学やボート界から注目を集める存在となりました。と同時に、エイトでの勝利の願望と期待を、縦横斜めから強く感じる今日この頃です。

「何をしたいのか?」「なぜ得たいのか?」「どのように得るのか?」。3つのシンプルな質問を、生活面や競技面すべてにおいて上書きし続ける先に、質の高い目標の達成があります。学生たちとコミュニケーションの質を高め、共に汗を流し、共に目指し、喜びを共有するシーズンにしたいと思っています。



コーチ

岩井 雄史

2019年度の感想をひと言で言うと、エイトを組む難しさを改めて学んだシーズンだった。日本一の部員数を誇るチームになった故、最強の8人によってエイトは編成されなければならなかった。これができなかったことは監督、コーチ陣の未熟さに尽きる。選手たちは本当によく頑張った。男子舵手付きフォアの日本一はその象徴だ。そして、腰痛と戦いながら最後まで選手として戦った中村君は、ハードな練習で体が悲鳴を上げていても“勝ちたい”その気持ちだけで戦った選手の象徴だろう。

2020年、インカレで男子エイト、女子クォドルブルが日本一を達成するために必要なことは何か? 確実にわかっていることは、これまでの延長線上の取り組みではいけないということ。



コーチ

堀田 裕希

2019年度は、インカレで2度目の日本一を掴み取ることができました。また、そのほかにも入賞者を多数輩出することができ、最終日まで進む艇も増えました。これもひとえに皆さまの日頃の温かいサポートがあってこそだと思っています。クルーボートで最終日まで残る艇が増えたことにチームの力の底上げができていて感じています。特に私が今年のインカレで感じたことは体格面において、戸田勢に全く脅威を感じなくなったことです。それは選手自身も感じており、日頃の練習やトレーニングに自信をもって取り組んでくれています。ただ、女子漕手においては戸田勢に対して体格面でまだ劣っており、もう少し強化が必要だと感じています。今オフの重点強化ポイントとして、女子漕手の筋肉量増加を掲げています。

来シーズンは男子漕手とともに女子漕手の飛躍した姿もお見せできると思います。引き続きご支援のほど、よろしくお願いいたします。



令和元年度 ボート部にご支援いただいた皆さま

いつもご支援ありがとうございます。来年度もよろしくお願い申し上げます。

昭和38年卒	昭和56年卒	平成 2 年卒	平成 9 年卒	平成21年卒	平成28年卒
中村 泰博	池谷 晋	朝倉 伸二	奥 哲史	川口 正嗣	今富 圭一
	荒山 元秀	石橋 雅信	関根 佐和子	瀬川 敏克	中小路 悟
昭和40年卒	細見 博	坂本 竜一	渡辺 綾子	有木 良輔	平井 貴大
石本 君夫	中住 慎一	島田 恭典	藤井 周子	金野 裕輝	入村 悠
	野瀬 正治	配川 隆司	岡 将行	河合 弘貴	大隅 清貴
昭和41年卒	内海 久俊	北村 正樹		川淵 智貴	山田 高輝
大宮 久	中辻 努	朝倉 優子	平成10年卒	内藤 殺人	葉山 顕祥
			有馬 誠生	北野 万里香	松村 啓介
昭和42年卒	昭和57年卒	平成 3 年卒	石橋 欣也		勝島 愛
飯田 隆史	目片 雅喜	乾 健治	岩田 勇人	平成22年卒	
	森 保二	重松 健一	澁谷 一郎	大沼 茂彬	平成29年卒
昭和44年卒	林 圭介	榎原 雅也	高橋 功	佐藤 勇樹	田井 哲朗
塚本 和夫	林田 尚之	佐藤 将人	中原 輝宣	千原 第實	中來田 悠介
洲濱 祐一	久保 智之	津嶋 泰	岡前 秀彦	三谷 大輔	津田 邦泰
	山本 健也	三上 和彦	内藤 竜一		平田 耕一
昭和45年卒	松山 厚志	安達 祥子	山崎 安雅	平成23年卒	阪 悠樹
新井 喜範	永野 巖	小原 隆史	古川 顕生	菊池 修一郎	
村井 富雄		杉山 伸		今関 将太	平成30年卒
清水 正俊	昭和58年卒	平成 4 年卒	平成11年卒	打它 晃	松本 直弥
	小森 進治	谷 昌二郎	網嶋 雄一郎	木下 啓史	能勢 政典
昭和46年卒	和田 学	小林 重之	中島 千尋	森福 将之	阿部 正典
大橋 行正	松田 弘一	小田切 拓		福重 太郎	糸魚川 宗志
	田中 秀昭	加藤 康	平成12年卒	池田 ひかる	大森 健太
昭和47年卒	高山 一也	功力 英俊	若杉 圭	奥 知里	奥谷 翔
下津 進	貝賀 俊之	勝本 肇	北谷 充	今井 文美	宮田 将平
	明石 逸二	吉田 拓生	高橋 輝	西本 孝志	星野 夏貴
昭和48年	吉田 寛伸	米山 尚吾	平成13年卒	西岡 成美	佐武 宏哉
若菜 英作	昭和59年卒	平成 5 年卒	井口 順太	田中 克弥	横田 颯一郎
	米村 康弘	原田 昌彦	末廣 恭一	園田 真大	松坂 滉
昭和49年	河南 潤治	井上 賢二	銭谷 剛志		古賀 寛之
植西 信子	谷口 幸一	内田 琢也	吉田 亮	平成24年卒	三井 敏匡
楠戸 俊宣	作間 秀樹		高橋 弥紀	関本 駿	村田 真哉
花森 節夫	松本 収平	平成 6 年卒	高橋 毅	中村 康治郎	北野 裕樹
山形 彰人		押領司 哲也	平成14年卒	濱島 昌輝	西川 修眞
小松 研一	昭和60年卒	喜多 栄太	山田 篤	上田 奈保子	桑原 康彰
	伊藤 寛	早坂 真一		千原 奈美	黒田 宗一郎
昭和50年卒	石鍋 寿久	松城 敬	平成15年卒	平成25年卒	高瀬 絵留萌
宮地 信行	矢野 英明	余谷 有紀枝	赤尾 宣彦	鈴木 直道	八木 友菜
鎌田 博	小森 康充	堀内 昭宏	木口 学	中田 幸祐	近藤 晴子
植野 誠之	昭和61年卒	木内 良典		谷田 浩毅	山口 真奈
上田 達彦	高下 康治	中澤 郁男	平成16年卒	長畑 真実	山田 真奈
	磯田 秀樹	中西 孝夫	今東 俊雄	南出 貴裕	田口 夕侑乃
昭和51年卒	谷川 真司	竹内 秀暢	中村 洋太郎		令和元年卒
武尾 豊	中村 俊裕	藤井 啓宏	松尾 智之	平成26年卒	石田 大知
	安田 智雄		村井 亮	池本 雅基	藤原 駿也
昭和52年卒	安田 克裕	平成 7 年卒	堀内 康武	万木 恭介	久保 剛
荻野 義明	川崎 五代嗣	佐伯 明		檜垣 聡志	龍重 航
中野 貴夫		伊藤 崇	平成17年卒	谷井 沙衣	櫻間 達也
矢島 正恒	昭和62年卒	小吹 悟	渡辺 雄介	平成27年卒	澤 駿太
馬杉 淳一	樋口 健一郎	藤牧 宏彰	家弓 正史	日比野 聖司	木村 俊樹
	屋久 浩典		岡田 大介	君和田 剛大	原田 遥大
昭和53年卒	藤田 哲哉	平成 8 年卒	岡田 綾子	佐藤 拓朗	岡本 晃壽
桶田 英俊	志賀 理	岡本 和彦		太田 圭祐	高野 敦
	高橋 良明	小林 賢史	平成19年卒	丸尾 拓也	大谷 文則
昭和54年卒	奥谷 勇人	武田 知也	角谷 明彦	川村 佳苗	末次 真夏
木村 俊雄		渡辺 将常	中村 周作	三島 奈々	西田 樹乃
高橋 正樹	昭和63年卒	山田 寛幸	角谷 美樹	新垣 彩実	斎藤 暢子
村田 市郎	阿江 克彦	薄 真理			二神 こころ
藤井 浩	原 一雅	高橋 彩	平成20年卒		大下 瑞季
	平松 靖之	木原 聡	可児 怜央		園 美沙都
昭和55年卒	平成元年卒	白田 圭助			竹内 裕希
水野 正成	関谷 晴彦	吉野 光治			山本 瑠依
玄道 秀則	石田 政隆				亀井 美紀子
桜井 隆夫	井上 周一				
井頭 感	大島 昭子				
小関 隆一					
益田 秀仁					

※敬称略 ※艇友会費を納入いただいた方および寄付金をいただいた方を掲載しています。

編集後記



いつもお世話になっております。このたび、『力漕』の制作を担当いたしました3回生マネージャーの春田ひかると申します。まずはじめに、『力漕』第27号の制作にご協力いただきました皆さまに深く御礼申し上げます。皆さまのご協力があったからこそ、今年度も無事に『力漕』を発刊することができました。

『力漕』の制作を通じて、さまざまな方にお会いし、いろいろな話をお聞きました。インタビューにご協力くださったOBの方や広告の協賛にご協力くださった企業の方々。一人ひとりとお会いしたりメールをするたびに、学びがあり発見がありました。そして、部における私の意味のようなものも見出すことができました。

OBの方にインタビューをした際に感じたことがあります。それは「繋げる」ということです。マネージャー業という裏方の、ボートには直接関係のない仕事でも、ボートに、部に、

繋げることができると気づきました。例えば部誌だってそうです。部誌というボートには関係のないものを、手に取ったOBや保護者の方が同志社大学ボート部を少しでも知ってくださり、高校生が手にした際に少しでも懂れてくれたなら。ボート部を応援してくれる人が増えたり、ボート部に入りたいと志してくれる未来のボート部員が増えるかもしれません。それはボート部にとって大きな力となるはずです。そして回り回って艇速に繋がるかもしれません。そんな想いを込めて、今年度の部誌『力漕』を作成いたしました。少しでもこの想いが多くの人に届くことを願っております。

来年度も、今年度を超える飛躍を目指し、部員一同精進してまいります。これからどうぞ皆さまの温かいご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

3回生マネージャー 春田 ひかる



人の輪 無限大 株式会社 **グランビズ** 代表 林田 尚之
nao@grandbisou.jp

漕縁も広げる



GrandBisou
for human value up with LOVE

喫茶・お食事

サイフォンで淹れる
コーヒーと、味わい深い
白金豚のお料理は
いかがですか？

YOU and ME

〒520-2132
大津市神領3丁目21-19 金子野和第1ビル1F
TEL/FAX (077)532-6935

極上生パスタ

スゲルツオ

地下鉄今出川駅②番出口 徒歩2分

そば
一品料理

あ
吾

づま
嬢

大津市瀬田1丁目19-31 TEL:077-545-0011

セブン-イレブン
大津瀬田西インター店

〒520-2134 滋賀県大津市瀬田3丁目24-6 TEL:077-543-8823

料理
あみさだ
AMISADA

TEL:077-537-1780
FAX:077-537-1791
http://amisada.jp

〒520-0851 大津市唐橋町23-1 〔瀬田唐橋中の島南側〕

カフェ・レストラン **アドリア**

湖岸道路唐橋下ル TEL:077-537-3355

京阪シルク

京のちりめん問屋

丹後ちりめんと、
京友禅の融合した伝統美

京阪シルクは和装小物・袋物用素材・和雑貨の企画開発をしています。
近年は特にちりめんに注力した素材を提供しています。
丹後ちりめんと京友禅の融合した伝統美をお楽しみください。

〒600-8108
京都市下京区五条通西洞院東入る
TEL:075-351-2340
FAX:075-351-4352
www.keihansilk.com



YUZEN MUJI KINRAN WACHO SOZAI COMPANY

同志社艇友会の皆さん、そしてボートを愛する全ての皆さんへ

マスターズで漕ぐボート、そこには学生時代のボート部とは全く違う世界があります。
ボートこそ、生涯スポーツに最適な種目です。“漕縁”が人生の新たなネットワークを生み出します。
北海道、関東、関西、全国に仲間がいます。一緒に漕ぎましょう。お気軽に連絡ください。



ヘッドオブ瀬田2019完漕



朝日茨戸レガッタエイト(同志社OBチーム優勝)

【連絡先】
小関隆一(昭和55年卒)
携帯:090-7273-9968
メール:r.koseki@hobbyspace.co.jp
石橋欣也(平成10年卒)
携帯:090-8346-1574
メール:wmrpt31414840116@gmail.com

営業力強化研修をご提案します！

研修実績:大阪府庁、東京都庁、キッコーマン、野村證券、大塚商会、日本生命、富士通、NEC、日本経済新聞社、パソナ、大阪ガス、三菱UFJ銀行、ローソン、SMBCコンサルティング、他

小森コンサルティングオフィス 代表:小森 康充(昭和60年同志社大卒)

URL <http://www.giantkevin.com>

メール yasumitsu.komori@gmail.com

プロフィール:P&G等外資系企業で20年間の営業キャリア、その後神戸学院大学で客員教授に就任、2009年に営業力強化コンサルタントで独立。現在はビジネス社会の勝利と成功をサポートするため企業研修を年間150回実施している。著書に「スベらない商談力」「リーダー 3年目からの教科書」等



同志社大学アルバイト紹介システム

短期・単発もあるよ！

学内のアルバイトも掲載！

いいバイトだけを厳選！

大学別のアルバイト情報が閲覧できる
学生アルバイト情報ネットワーク

大学
公認

学生の
ための
サイト

バイトネット



バイトネットは大学が設定した基準をクリアした安心、安全なアルバイト情報のみを審査して掲載しています。

大人気！
試験監督や
塾講師

嬉しい
短期単発の
スタッフ募集

授業や部活
学生への
理解がある！

学内バイト等
他媒体では
見つからない！

新規登録方法

QRコードもしくは下記 URL よりサイトにアクセスし、以下の手順に従って新規登録してください。

 <https://www.aines.net/doshisha>



STEP1 開く

トップページから
新規登録画面を
開いてください。

STEP2 アドレス登録

e-mail アドレスを
登録してください。

STEP3 メール確認

ご登録いただいた
e-mail アドレス宛に
ID とパスワードが
届きます。

STEP4 ログイン

ログイン画面に ID と
パスワードを入力し
ログインしてください。

STEP5 検索！

希望のアルバイトが
見つかったら、直接
求人先に連絡して
ください。

ビジネスを加速させる、グローバルロジスティクス。

あらゆるビジネスの、さまざまなニーズに応える日本通運のグローバルロジスティクス。

お客様に合わせた物流ソリューションが、ビジネスの効率化をはじめ、生産性と収益性の向上を提供します。

私たちは、世界45カ国293都市のネットワークで、あなたのグローバルビジネスを加速させます。

We Find the Way

 **日本通運**
NIPPON EXPRESS

www.nittsu.co.jp



Eat Well, Live Well.

Ajinomoto
AJINOMOTO



男子5000メートル
山縣 亮太

スポーツに、サイエンスを。



スポーツ栄養科学から生まれた

amino VITAL

ドラッグストア、スポーツ店、通信販売等でお買い求めください。 ※店舗によって一部取り扱いがない商品もございます。

詳しくはWEBへ。 [アミノバイタル](#) [検索](#)



WILD ROVER CREW
DOSHISHA UNIVERSITY

力漕

vol.027

YEARBOOK 2018.11-2019.11

同志社大学 体育会ボート部